

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
基礎ゼミナール	自立・自活のための基礎科目	1	1	大学における「学修」の意味を学び、大学生活を豊かにする人間関係を構築しながら、授業に臨む環境をつくる。ひとりひとりの学生が、学園の歴史と人材養成像を知り、大学での「学修」の指針を理解し、将来の進路等を見据えたうえで、目的意識・問題意識をもって学修目標と学修計画をたて、学生生活を進めることができるようになる。具体的には文献検索、資料収集、学内システムの活用など、大学で「学修」するために必要な学修技法を実践的に修得し、それをもとに得た成果を発表する作業を課することによって、主体的な学修姿勢を身につける。	1. 大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようになる。 2. 自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。 3. 図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようになる。	1. 大学における「学修」の意味を理解し、大学生としてそして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきこと、学生生活に関する心構えやルールについて学び考える姿勢を最低限ルールに基づいて行動できる。 2. 自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を最低限自ら立てられるようになる。 3. 図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、最低限活用できるようになる。
論理的思考・文章表現	自立・自活のための基礎科目	1	1	大学教育の基盤となる論理的思考力・文章表現力の育成を目的とする科目である。具体的には、文章を書くための基本的知識や技能を確認し、論理的思考法の意義や方法を理解したうえで、論理的な資料分析や構成法に基づく説得力のある文章表現力を身につける。	1. 文章を書くための基本的知識や技能を習得し、実践できるようになる。 2. 論理的思考法の意義や方法を理解し、それを資料分析や着想、論理構成に応用できるようになる。 3. 資料を正しく読解・分析し、自分の意見を論理的な文章で表現できるようになる。	1. 文章を書くための基本的な知識や技能を、最低限身に付け、実践できる。 2. 論理的思考法の意義や方法を理解し、それを資料分析や着想、論理構成に応用することが、最低限できる。 3. 資料を正しく読解・分析し、自分の意見を論理的な文章で表現することが、最低限できる。
ライフプランと自己実現	自立・自活のための基礎科目	2	1	基礎ゼミナールで描いたライフプランやキャリアプランをベースにして、将来社会に出て、生活してゆくために、自分の生き方について考える。自分の人生において働くことをどう位置づけ、意味づけるか、さらに働くことを家庭生活や市民生活にどう関連づけるかを考察した上で、自らキャリアを開発し、またemployabilityを確立し、それらを高めてゆくための方法を知る。特に、生活の根幹となる労働を軸に、結婚・出産や家族のケアといったライフステージの変化にどう対応するかを、社会制度の活用の仕方とともに学び、自己分析を通じてライフプランやキャリアプランを客観的な視点で作成し、その実現に向けた学生生活を送ることを目指す。講義以外にも、ワークシート作成、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを積極的に取り入れて、他者の意見も受容しながら、自己理解を深化させて、キャリアを創造する。	1. 自身のライフプランやキャリアプランを具体的に描くことができるようになる。 2. 創造的に人生を送るための問題意識や社会制度に関する知識を身に付けることができるようになる。 3. 夢や目標を持ち、職業観を身に付け、自ら描いたキャリアデザインの実現に向けて、学生生活ですべきことを明確化できるようになる。 4. キャリアにまつわる理論を理解して、自己分析ができるようになる。	1. 女性としての自身のライフプランやキャリアプランを創造し、最低限描くことができるようになる。 2. 創造的に人生を送り、努力しながら学び続けるための問題意識や姿勢を最低限身に付けることができるようになる。 3. 夢や目標を持ち、職業観を身に付け、自ら描いたキャリアデザインの実現に向けて、学生生活ですべきことを最低限明確にすることができるようになる。 4. キャリアにまつわる理論を知識として最低限理解して、自己分析ができるようになる。
課題解決ワークショップ	自立・自活のための基礎科目	1	1	課題の内容を的確に把握し、各グループでテーマを発見するための基礎力を養う。テーマに沿って調査・分析し様々な解答を検討し、グループでのディスカッションと作業により、最終の解答を導き出す。グループでの課題解決型学修をとおして、グループワークに必要な基本的なコミュニケーション能力、口頭による発表（プレゼンテーション）や討論の能力を身に付ける。また、プレゼンテーションを通して、様々なプレゼンテーションの手法を学び、口頭で他者を論理的に説得するために必要な基本的スキルを修得する。	1. 課題の内容を把握し、具体的かつ適切な問題設定を行えるようになる。 2. グループワークを円滑に進めるためのスケジュールを立案すると共に、基本的なコミュニケーションがとることができるようになる。 3. グループの人達の様々な意見・考え方を理解し、建設的な意見交換ができるようになる。 4. プレゼンテーション手法を学び、説得力が高く相手を納得させることができるプレゼンテーションができるようになる。	1. 課題の内容を把握し、具体的かつ適切な問題設定を行うことが最低限できる。 2. グループワークを円滑に進めるためのスケジュールを立案すると共に、基本的なコミュニケーションが最低限取ることができる。 3. グループの人達の様々な意見・考え方を理解し、建設的な意見交換が最低限できる。 4. プレゼンテーション手法を学び、説得力が高く、相手を納得させることができるプレゼンテーションが最低限できる。
情報基礎	情報リテラシー	2	1	高度情報化社会に必要な情報処理の基礎を「理論的に」学ぶ。併せて、現代社会における情報の役割と活用、情報倫理、メール技術に加えて、社会を形成する情報システムと個人の情報行動（発信、検索、蓄積、運用）との関連なども学ぶ。	1. アナログ情報とデジタル情報、情報量、コンピュータシステム、コンピュータネットワーク、セキュリティ、情報システムとそれを支える制度、現代社会における情報システムの問題点認識とそれへの対応、メディアリテラシーとSNSリテラシー、個人情報管理、などの基本的概念を理解できる。	以下に挙げる概念等の基本を理解している。(知識・理解) 1. アナログ情報とデジタル情報 2. 情報量 3. コンピュータシステム 4. コンピュータネットワーク 5. セキュリティ 6. 情報システムとそれを支える制度 7. 現代社会における情報システムの問題点認識とそれへの対応 8. メディアリテラシーとSNSリテラシー 9. 個人情報の管理
情報処理	情報リテラシー	2	1	高度情報化社会に必要な情報処理技術の基礎を「実践的に」学ぶ。具体的には、Word、Excel、PowerPointを効果的に活用するための応用操作のスキルを修得する。また、データベース機能の理解を主眼として、情報の収集・加工・分析・検索・蓄積と廃棄・発信など、情報を活用するための管理手法についても「実践的に」学修し、簡便に情報発信できるブログ（WebLog）の作成を行い、Web管理の実践についても実践する。	1. さまざまなレポート作成や論文作成に必要な不可欠なワープロソフトウェア、数値データ処理やグラフ作成、そしてデータベース処理操作を可能にする表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアといった情報処理能力を涵養するうえで最も基本的なソフトウェアそれぞれの基本操作が行えるようになり、それらを効果的に利用することができるようになる。 2. データベースの構成概念を理解した上で、簡単な課題をもとに表計算ソフトウェア等を用いたデータベース構築ができるようになる。 3. コンピュータネットワークを効率的に利用した情報収集とその蓄積、および効果的な情報の発信ができるようになる。	以下の種類のソフトウェアの概念や各種機能、使用法の基本を理解している。さらに、授業時に提示された問題の解決のためにそれを適用できる。(技能) 1. ワードプロセッサ 2. 表計算ソフトウェア(データベース関連機能および統計関連機能を除く) 3. プレゼンテーションソフトウェア
情報の分析と活用A	情報リテラシー	2	1・2	「情報基礎」「情報処理」で扱う知識とスキルをベースにして、情報の効果的な収集手法・分析手法・表現方法を「実践的に」学ぶ。また、統計学の基礎と人文・社会科学、自然科学への適用方法、基礎的な知識、特に統計結果の見方について理論的に学ぶ。	1. Excelを用いた実践的な情報分析をすることができる。 2. 分析したデータの解釈ができる。 3. 統計学の基礎的な知識とスキルを身につけ、活用することができる。	1. Excelを用いた最低限の情報分析を行うことができる。 2. 分析したデータのおおまかな解釈ができる。 3. 統計学の基礎的な知識と記述統計など最低限のスキルが身につけている。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
情報の分析と活用B	情報リテラシー	2	1・2	高度情報化の現在において、自然科学の分野のみならず人文科学その他の多くの分野でも不可欠なものである統計の数理処理について、実践を交えて理解する。情報収集にあたり、仮説の構築とそれを検証するための実施計画の詳細(求める情報の質、対象、収集手段など)、得られた情報の特性に対応した統計処理の手法、結果の発信方法などを具体的に学び、PowerPointを活用して、プレゼンテーションをすることを通して表現力を身につける。	1. 統計学の基礎的な知識とスキルを用いて分析することができる。 2. 分析した内容を効果的に発信することができる。 3. PowerPointを用いた実践的で美しい資料を作成できる。	1. 統計学の基礎的な知識とスキルを用いた、最低限の分析をすることができる。 2. 分析した内容を発信することができる。 3. PowerPointを用いた最低限の資料作成ができる。
英語A（リスニング・スピーキング）	英語	2	1	高校までの受験に対応した学習の偏りを是正しつつ、これまでに身につけた基礎力の一層の充実に努め、コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の運用力を身につける。具体的には、文法の基礎を理解し、発音や聞き取りの訓練によってスピーキング・リスニングの力を向上させて、語彙の学習を通じて様々な英語表現を身につける。プレイメントテストを実施し、学生はその成績に応じたレベルのクラスを履修する。	・ 日常会話レベルの英語を聞いて解釈できる。（知識・理解） ・ 日常会話レベルの内容を英語で表現できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） ・ 日常会話レベルの英語の運用に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	・ 平易な日常会話レベルの英語を聞いて解釈できる。 ・ 平易な日常会話レベルの内容を英語で表現できる。 ・ 平易な日常会話レベルの英語の運用に必要な語彙を使用できる。
英語B（リーディング・ライティング）	英語	2	1	高校までの受験に対応した学習の偏りを是正しつつ、これまでに身につけた基礎力の一層の充実に努め、コミュニケーションと異文化理解の手段としての英語の運用力を身につける。具体的には、文法の基礎を理解し、英文読解や英作文の訓練によってリーディング・ライティングの力を向上させて、語彙の学習を通じて様々な英語表現を身につける。プレイメントテストを実施し、学生はその成績に応じたレベルのクラスを履修する。	・ まとまった量の英文（パラグラフ）の主旨・大意を正確に解釈できる。（知識・理解） ・ 自分の意見や身辺な出来事を、パラグラフを構成しながら英文で正確に表現できる。（技能）（思考・判断・表現） ・ 高度な内容の英語の運用に必要な語彙を身につけ、使用できる。（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	・ まとまった量の英文（パラグラフ）の主旨・大意をある程度解釈できる。 ・ 自分の意見や身辺な出来事を、パラグラフを構成しながら英文である程度表現できる。 ・ 平易な内容の英語の運用に必要な語彙を身につけ、使用できる。
フランス語Ⅰ（入門）	初習外国語	2	1	初学者を対象に、フランス語を学ぶ楽しさを知り、文化としてこれを学ぶ意味を自覚することを主眼に置きながら、初歩的なフランス語を習得する。具体的には、発音の規則、文法の初歩、簡単な日常会話などを学んでいく。また、フランス語を学ぶ楽しさと意味をより深く認識すべく、言葉の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）などにも触れて理解する。	1. フランス語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. フランス語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. フランス語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. フランス語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. フランス語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. フランス語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. フランス語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. フランス語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。
フランス語Ⅱ（表現）	初習外国語	2	1	「フランス語Ⅰ（入門）」をすでに履修し、初歩的なフランス語になじみ、これを学ぶ意味を自覚した学生が、文化としてのフランス語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めをする。すなわち、フランス語の初級文法を体系的に学び、その運用能力を培うとともに、口語表現能力を向上させる。	1. フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. フランス語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. フランス語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。	1. フランス語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. フランス語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. フランス語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。
中国語Ⅰ（入門）	初習外国語	2	1	初学者を対象に、中国語を学ぶ楽しさを知り、文化としてこれを学ぶ意味を自覚することを主眼に置きながら、初歩的な中国語を習得する。具体的には、発音のしくみとその表記法であるピンインから始まり、文法の初歩、簡単な日常会話などを学んでいく。また、中国語を学ぶ楽しさと意味をより深く認識すべく、言葉の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）などにも触れて理解する。	1. 中国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. 中国語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. 中国語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. 中国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 中国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 中国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. 中国語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. 中国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。
中国語Ⅱ（表現）	初習外国語	2	1	「中国語Ⅰ（入門）」をすでに履修し、初歩的な中国語になじみ、これを学ぶ意味を自覚した学生が、文化としての中国語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めをする。すなわち、中国語の初級文法を体系的に学び、その運用能力を培うとともに、口語表現能力を向上させる。	1. 中国語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中国語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. 中国語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。	1. 中国語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 中国語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 中国語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。
ドイツ語Ⅰ（入門）	初習外国語	2	1	ドイツ語を学ぶ楽しさを味わいつつ、文化としてのドイツ語学習の意味を視野に入れて、初歩的なドイツ語を習得する。すなわち、発音の規則、文法の初歩を学び、簡単な日常会話に習熟するとともに、ドイツ語の文化的背景（生活、社会、文学、芸術、歴史、地理等）にも触れて理解する。	1. ドイツ語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. ドイツ語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. ドイツ語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. ドイツ語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. ドイツ語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. ドイツ語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. ドイツ語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. ドイツ語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ドイツ語Ⅱ（表現）	初習外国語	2	1	「ドイツ語Ⅰ（入門）」をすでに履修し、初歩的なドイツ語になじみ、ドイツ語学習の意味を自覚した学生が、ドイツ語を本格的に学び、身につけてゆくための基礎固めの科目として位置づける。具体的には、ドイツ語の初級文法を体系的に理解し、その運用能力を身につけるとともに、日常生活に役立つ口語表現能力の向上をめざす。	1. ドイツ語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. ドイツ語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その運用に習熟することができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する基本的な事象について正確に説明することができる。	1. ドイツ語の初級レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. ドイツ語の初級レベルの文法や構文を体系的に理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. ドイツ語圏の文化に関する基本的な事象について概略を説明することができる。
韓国語Ⅰ（入門）	初習外国語	2	1	韓国語の文字の書き方にもなじみながら、発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現に親しむことを通じて、文化としての韓国語とはどのような言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握する。	1. 韓国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 韓国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 韓国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. 韓国語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. 韓国語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. 韓国語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 韓国語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 韓国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. 韓国語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. 韓国語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。
韓国語Ⅱ（表現）	初習外国語	2	1	「韓国語Ⅰ（入門）」を踏まえ、「聞く、話す、書く、読む」の幅広い運用能力を身につける。	1. 韓国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. 韓国語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. 韓国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。	1. 韓国語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 2. 韓国語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 3. 韓国語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、概略を説明することができる。
スペイン語Ⅰ（入門）	初習外国語	2	1	スペイン語の発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現、重要動詞の活用などに親しむことを通じて、文化としてのスペイン語とはどのような言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握する。	1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. スペイン語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. スペイン語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. スペイン語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. スペイン語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。
スペイン語Ⅱ（表現）	初習外国語	2	1	「スペインⅠ（入門）」を踏まえ、「聞く、話す、書く、読む」の幅広い運用能力を身につける。	1. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 2. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用に習熟することができる。 3. スペイン語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、正確に説明することができる。	1. スペイン語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 2. スペイン語の基礎的な文法や構文を理解し、その実践的な運用を一定程度行うことができる。 3. スペイン語圏の文化に関する一般的な事象について、自身の文化とも比較しながら、概略を説明することができる。
イタリア語	初習外国語	2	1	イタリア語の発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現、重要動詞の活用などに親しむことを通じて、文化としてのイタリア語とはどのような言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握する。	1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. イタリア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. イタリア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. イタリア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. イタリア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. イタリア語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. イタリア語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。
アラビア語	初習外国語	2	1	アラビア語の文字の書き方にもなじみながら、発音と文法のアウトラインを学ぶことを主眼に、日常よく用いられる基本単語、基本表現に親しむことを通じて、文化としてのアラビア語とはどのような言葉であるか、そのおおまかな全体像を把握する。	1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その運用に習熟することができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 5. アラビア語圏の文化に関する初歩的な事象について正確に説明することができる。	1. アラビア語の発音の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. アラビア語の文字表記の仕組みや特徴を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. アラビア語の基礎的な語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 4. アラビア語の基礎的な文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 5. アラビア語圏の文化に関する初歩的な事象について概略を説明することができる。
基礎日本語（留学生対象）	初習外国語	2	1・2	中級後半レベルの教材（日本語や日本文化、日本の社会など、専門分野と関係があると思われる内容のエッセイや論文）を使用し、文法の知識や語彙を増やすとともに、専門書を読む準備段階としての読解力を養う。また、レポートや論文を書くための基本的な文章表現力を身につける。	1. 中級後半レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その運用に習熟することができる。 2. 中級後半レベルの文法や構文を理解し、その運用に習熟することができる。 3. 専門書を読む準備段階として、中級後半レベルの教材（日本語や日本文化、日本の社会など、専門分野と関係があると思われる内容のエッセイや論文）の読解に習熟することができる。 4. 話しことばと書きことばの違いを理解し、論理的な文章に特有な表現を用いたり、段落構成を考えたりしながら、レポートや論文作成に必要な基本的な文章表現に習熟することができる。	1. 中級後半レベルの語彙の発音・表記・意味・用法を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 2. 中級後半レベルの文法や構文を理解し、その基本的な運用を行うことができる。 3. 専門書を読む準備段階として、中級後半レベルの教材（日本語や日本文化、日本の社会など、専門分野と関係があると思われる内容のエッセイや論文）の基本的な読解を行うことができる。 4. 話しことばと書きことばの違いを理解し、論理的な文章に特有な表現を用いたり、段落構成を考えたりしながら、レポートや論文作成に必要な基本的な文章表現を行うことができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
応用日本語（留学生対象）	初習外国語	2	1・2	講義の聴き方やノートのとり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルを習得する。また、これらの知識を元に、自ら選んだテーマに沿って演習を行い、口頭発表（読み取った文章・資料の内容を説明したり、自分の意見を筋道立てて述べたりする練習）やレポート作成のスキルを身につける。	1. 講義の聴き方やノートのとり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルの運用に習熟することができる。 2. 口頭発表やレポート作成のためのスキルの運用に習熟することができる。 3. 講義や演習などの学習場面にとどまらない、キャンパス内外での円滑なコミュニケーション（挨拶や質問の仕方、メールの書き方など）に必要なスキルの運用に習熟することができる。	1. 講義の聴き方やノートのとり方、情報収集の方法など、講義や演習などの学習場面において必要となるスキルの基本的な運用を行うことができる。 2. 口頭発表やレポート作成のためのスキルの基本的な運用を行うことができる。 3. 講義や演習などの学習場面にとどまらない、キャンパス内外での円滑なコミュニケーション（挨拶や質問の仕方、メールの書き方など）に必要なスキルの基本的な運用を行うことができる。
日本の歴史を学ぶ	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	文学・芸術をはじめとするさまざまな文化には、それぞれ固有の歴史や時代背景がある。そして、国家や社会はそのうえに成立している。講義内容は通史を原則とするが、いわゆる「広く浅く」歴史の表面をなぞるのではなく、特定の時代や分野にウエイトをおきつつ、日本史の通史や全体史を意識した講義内容となる。また、「日本」史とはいうものの、視点を日本国内のみに閉ざすのではなく、世界史の展開に目を向けつつ、日本歴史の基礎を学ぶ。	講義の内容を十分に理解し、取り上げられた日本史の歴史的事象のうち、基本的な事柄について十分に説明することができる（知識・理解・表現）。	講義の内容を理解し、取り上げられた日本史の歴史的事象のうち、基本的な事柄について説明することができる（知識・理解・表現）。
世界の歴史を学ぶ	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	グローバル・ヒストリーの観点から、日本を含めた世界の諸地域（ヨーロッパ、アジア、アフリカなど）にかんして、時代の流れの中で各地域がどのように結びつき、それはどのような政治的、経済的、軍事的な文脈において起こったものであるのか、そしてその結びつきは社会的、文化的にどのような影響を各地域に与え、次の時代の前提となったのかについて理解する。この観点から、古代（ローマ帝国から中国）、中世（十字軍）、近世（大航海時代から初期植民地）、近代（帝国主義）、現代（脱植民地化と21世紀のグローバル化）について、重点を置きつつ具体的に考察する。	・世界の歴史が、各地域で独立して存在しているのではなく、相互の結びつきの中で形成されていることを十分に理解し、解釈できるようになる（知識・技能）。 ・それぞれの時代における世界の各地域の結びつき方（結びつける要因）について、具体的に説明することができる（知識・理解）。 ・それぞれの時代の各地域の状況について、その概要を正確に説明することができる（知識・理解）。 ・現在のグローバル化を歴史的な背景から具体的に解釈することができる（知識・技能）。	・世界の歴史が、各地域で独立して存在しているのではなく、相互の結びつきの中で形成されていることを理解し、解釈できるようになる（知識・技能）。 ・それぞれの時代における世界の各地域の結びつき方（結びつける要因）について、最低限の説明をすることができる（知識・理解）。 ・それぞれの時代の各地域の状況について、その概要を説明することができる（知識・理解）。 ・現在のグローバル化を歴史的な背景から一定の解釈をすることができる（知識・技能）。
人間と地理を学ぶ	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	この科目では、「人文地理学」を取り扱う。人文地理学とは、地球上の空間に展開する人文現象を総合的に把握する学問である。その対象は、宗教、言語などの文化的現象から、産業などの経済活動、都市や農村における居住など、多岐にわたる。そしてこれら諸現象の相互作用や環境との交渉により表象する空間現象の仕組みを解明することが、人文地理学の目的である。この講義では、人文地理学の基礎的概念を学修し、文化、社会、産業、居住などの人文現象を地理学的に理解する視座を学修する。	・人間活動の地理的分布についての様々なテーマを的確に設定し、その特徴を人文地理学的に理解できる。（知識・理解） ・地形図などの地図に表現された内容から、授業で扱うテーマに関する情報を抽出し具体的に説明できる。（思考・判断・表現） ・地図やグラフなどから抽出した情報を、地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。（思考・判断・表現）	・人間活動の地理的分布についての2～3のテーマを設定して、その特徴を人文地理学的に理解できる。（知識・理解） ・地形図などの地図に表現された内容を、授業で扱う内容に関連付けて考えることができる。（思考・判断・表現） ・地図やグラフなどから抽出した情報を、最低限度の専門用語を用いて説明できる。（思考・判断・表現）
文学をひらく	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	古今東西の文学作品を鑑賞することによって、文学とは何か、また文学表現の特質とは何か、を学んでゆく。具体的には、文学が表現する人生の多様さと豊かさに触れることにより、日々の生活の中に美や感動、驚きを見出すとともに、文学に表現された深い人間理解を通じて、自分自身はもちろん、他者の心をも見つめ直す。	1. 授業で取り上げられた文学作品を、表現に即して理解し、創造的・発展的に解釈することができる。また、その内容を、自分自身の言葉で明確に表現できるようになる。（知識・理解） 2. 授業で取り上げられた文学作品の鑑賞を通じて、文学表現の特質や多様性について知り、またそれらを、文学作品の背景にある歴史的・社会的なコンテクストと結びつけて考えることができるようになる。（知識・理解） 3. 文学作品に表現された深い人間理解を通じて、日々の生活における自己や他者、さらには社会のありようを見つめ直す視点が持てるようになる。（関心・意欲・態度）	1. 授業で取り上げられた文学作品を自分なりに理解し、解釈することができる。また、その内容を表現できるようになる。（知識・理解） 2. 授業で取り上げられた文学作品の鑑賞を通じて、文学表現の特質や多様性についてある程度は知り、またそれらが、文学作品の背景にある歴史的・社会的なコンテクストと結びついているということを理解できるようになる。（知識・理解） 3. 文学作品の表現を通じて、日々の生活における自己や他者、さらには社会のありようを見つめ直すことの意義が理解できるようになる。（関心・意欲・態度）
芸術をひらく	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	美術・音楽・演劇などの芸術作品を扱い、それを「芸術」として成り立たせている社会的な枠組み、創造の過程や、同時代人のびとによる受容のされ方に触れることによって、複数の視点から物事を捉える感性を養うとともに、芸術や文化の多様性を体験することを通じて、みずからの価値観を相対化して捉えるすべを学ぶ。また、芸術が今後の社会において果たすべき役割を考察することによって、私たちが生きてゆく世界のあるべき姿を探ってゆく。	・美術・音楽・演劇などを芸術として成り立たせている社会的な枠組みや、創造の過程、受容のされ方といった芸術をめぐる問題のあり方について正確に説明できるようになる。（知識・理解） ・価値観の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、芸術についての考え方をを用いて深く考察することができるようになる。（思考・判断） ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。（表現）	・美術・音楽・演劇などを芸術として成り立たせている社会的な枠組みや、創造の過程、受容のされ方といった芸術をめぐる問題のあり方についてある程度正確に説明できるようになる。（知識・理解） ・価値観の多様性への視点を身につけた上で、みずから問いを立て、芸術についての考え方をを用いて自分なりに考察することができるようになる。（思考・判断） ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために自分なりに適切に応用することができるようになる。（表現）
哲学とは何か	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	哲学の主要関心は、古来、対自然、対人間、対超越とされ、それぞれの対象の本質的意義に関する論理的探究が積み重ねられてきた。この中でも特に対人間への関心は、そもそも対自然、対超越に関心を示す人間自身を問うものでもあり、両者への関心の何たるかを考える包括的視点を内包させているとされている。その点で、対人間への探求の視点は哲学の枢要に位置するものとされる。そこで本講義では、概論として、対人間に関する哲学の視点を概観することにするが、特に哲学の歴史的成果を踏まえて、現代におけるその代表的立場の幾つかを概説することにする。加えて現代における人間疎外の諸問題（孤独・貧困・地域紛争等）についても哲学的視点を踏まえて触れる。さて、和辻哲郎によれば、人間とはそもそも「世の中・世間」の意であり、本来の意味は社会のことであるという。さらにまた社会とは人と人との間（関係）によって成り立っているとされ、この関係が個人の存在を規定するという（関係の第一義性）。そこでまず人間の関係の在り方を理解するために、哲学の所謂関係主義の立場と、それと対立する実存主義（個人の第一義性）の立場を対比させて講じる。次に基礎的確認として人間（社会）の在り方（様相・構造・システム）の歴史的変遷を具体例に触れながら概観する。以上を踏まえて、人間の本質的在り方及び現代の人間疎外の根本原因について、ハイデッガー、ブーバー、アーレントなど現代を代表する哲学者たちの学説を概説する。また現代の哲学における対自然（自然科学との対決）、対超越（宗教との対決）の在り方についても一瞥する。	1. 人間に関する関係主義的理解と実存主義的理解について論理的分析的に説明できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 人間（社会）の在り方の歴史的変遷について具体例を示しながら説明できるようになる。（知識・理解） 3. 人間の本質に関する現代の代表的哲学説を専門概念を用いて説明できるようになる。（知識・理解） 4. 現代の人間疎外の本質に関する哲学説を論理的に説明し、自分の言葉で敷衍出来るようになる。（思考・判断・表現）	1. 人間に関する関係主義的理解と実存主義的理解について概説的に説明できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 人間（社会）の在り方の歴史的変遷について概説できるようになる。（知識・理解） 3. 人間の本質に関する現代の代表的哲学説を概説できるようになる。（知識・理解） 4. 現代の人間疎外に関する哲学説を論理的に説明出来るようになる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
心理を学ぶ	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	心理学とは、人間理解を目的とした学問である。そのため、この講義では、1.各々の受講生が心理学に関する幅広い知識を習得し、自分自身に引きつけて、人間について思いを巡らすことを通して、人間理解の方法に関する基本的枠組みを形づくること、2.修得した知識、技能等を日常生活に役立てられるようになること、の2点を学ぶ。	1.心理学の基礎的な概念を理論と関連づけて説明できる（知識・理解）。 2.心理学研究の技法を、実践例をふまえて説明できる（知識・理解）。 3.心理学の理論に基づいて日常生活の出来事を分析し考察できる（思考・判断・表現）。 4.心理学の知識を対人関係や日常的なメンタルヘルスの改善に活かそうとする意欲を、具体的な目標と共に表現できる（関心・意欲・態度）。	1.心理学の基礎的な概念を説明できる（知識・理解）。 2.心理学研究の技法を説明できる（知識・理解）。 3.心理学的の概念に基づいて日常生活の出来事を考察できる（思考・判断・表現）。 4.心理学の知識を対人関係や日常的なメンタルヘルスの改善に活かそうとする意欲を表現できる（関心・意欲・態度）。
自己開発	人間を理解するための教養	2	1・2・3・4	学生が自らの意志において、学内、学外を問わず、自己開発のために積極的に活動を起こし、社会や異文化との交流を積極的に行って、豊かな人間性を涵養する。海外の協定校で行われる海外研修（外国語の修得と異文化体験を目的とする）への参加、本学所定のボランティア活動への参加を通じて高い倫理性・責任感の養成や異文化理解をめざす。	・自己意志による自己開発の活動を通して、積極性が身につく、自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。（関心・意欲・態度） ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をしっかりと身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度）	・自己意志による自己開発の活動を通して、自分の人生観や世界観をある程度広げることができる。（関心・意欲・態度） ・創造的に人生を送るための問題意識や好奇心をある程度身につけることができる。（関心・意欲・態度）
法律を学ぶ（日本国憲法）	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	国の最高法規である日本国憲法と、憲法に基づき制定される法律は、社会制度の基盤をなしており、私たちの生活に日々関わっている。この講義ではまず「法とは何か」について考える。法と道徳の相違点、法の分類、裁判制度、裁判における法の解釈や適用の問題など、法学の基礎理論を学習することにより、法の役割・性質を理解する。次に、近代国家の形成の中で憲法が生じた過程を学習し、憲法の考え方の基本を理解する。その上で、日本国憲法の制定の歴史、憲法の基本原則、憲法の保障する権利、憲法の定める国家の統治組織の仕組み等を学習し、法と私たちの生活との関わりについて理解する。	・法の役割・性質について、講義で学習した様々な角度から説明することができる（知識・理解）。 ・憲法の考え方の基本について、講義で学習した内容を踏まえて説明することができる（知識・理解）。 ・日本国憲法について、その制定過程・基本原則・憲法の保障する権利と憲法に定める統治機構の仕組みを説明することができる（知識・理解）。 ・法と私たちの生活との関わりを理解し、法が形作る社会制度のあり方について、自身の考えを示すことができる（思考・判断・表現）。	・法の役割・性質について、講義で学習した概念を理解し適切な文脈で用いることができる（知識・理解）。 ・憲法の考え方の基本について、講義で学習した概念を理解し適切な文脈で用いることができる（知識・理解）。 ・日本国憲法について、その制定過程・基本原則・憲法の保障する権利と憲法に定める統治機構の仕組み等について基本的な事項を理解し、講義で学習した語句等を適切な文脈で用いることができる（知識・理解）
法律を学ぶ（概論）	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	本講義では、学生が卒業後に直面するであろう種々のトラブル等について、どのような法的な対応が可能であるかについて学習する。権利がたとえ法に規定されていたとしても、それを行使できなければならぬ意味をなさない。労働環境、妊娠や出産についての母体を保護する制度、契約をめぐる問題、婚姻等に関する法制度の基礎を学習する。	・成人年齢に達することによりどのような法的な権利を得、義務を負うのかについて総合的に理解できる。（知識・理解） ・労働法分野で自らに関連する事項のみならず、総合的に理解し、それらを実生活で活用できる。（知識・理解） ・婚姻、離婚などの人生イベントに伴う法的な問題について、総合的な知識を獲得する。（知識） ・生殖医療に関する法的な問題について総合的に把握ができ、議論することができる。（知識）	契約締結能力等について、基礎的な事項を理解する。労働法分野に関する基礎的な権利や制度について理解し、適用する。人生イベントに関連する法的な問題について考察できる。生殖医療の抱える問題について把握できる。（知識・理解）
政治を学ぶ	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	政治とは、社会における紛争を解決し、対立を調整しながら、社会の秩序を維持する人間の活動であり、政治学は、個人や集団の利害や価値をめぐる紛争や対立について研究し、それらをどのように調停できるかを考える学問である。この科目は、政治学の入門科目であり、まず選挙や政党、議会など政治制度の基礎概念を理解し、次に政治過程に関わる政官関係、利益集団、地方自治、社会運動、非営利団体、メディア、ジェンダーなどの働きや役割を分析するための基本的な手法を身につける。特に、日本社会における紛争や対立の解決に政治がどのように取り組んでいるかに注目し、日本の政治の特徴と問題点を実際の事例を交えながら考察する。	1.政治学の基礎概念について、社会科学の用語を用いて正確に説明できる。（知識・理解） 2.日本社会における利害や価値をめぐる紛争や対立の事例を見出し、政治学の基礎概念を用いて分析することができる。（思考・判断・表現）	1.政治学の基礎概念について、基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2.日本社会における利害や価値をめぐる紛争や対立の事例を見出すことができる。（思考・判断・表現）
倫理学とは何か	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	人間関係のあり方、ものの考え方など、倫理的問題系への関心を高め、現代社会において倫理学が果たす意義は何かについて議論を深める。近代以降、科学への信仰によってもたらされた人間観は、経験、知覚その他を含むすべての人間のあり方を根底から変えてきた。こうした人間概念の近代的変容について考える際に、人間関係のあり方、ものの考え方、自己とは何か、他者とは何かといった、現代に不可欠な倫理的問題系をテーマとすることで、現代世界を倫理的に考察するための基礎的な考え方を涵養する。	・人間関係のあり方、ものの考え方など倫理のさまざまな問題、また、近代以降の科学信仰によってもたらされた人間概念の変容について、明確に説明することができるようになる。（知識・理解） ・自己や他者をめぐる倫理学の考え方を身につけた上で、みずから問いを立て、倫理学の発想を用いて深く考察することができるようになる。（思考・判断） ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる。（表現）	・人間関係のあり方、ものの考え方など倫理のさまざまな問題、また、近代以降の科学信仰によってもたらされた人間概念の変容について、ある程度明確に説明することができるようになる。（知識・理解） ・自己や他者をめぐる倫理学の考え方を身につけた上で、みずから問いを立て、倫理学の発想を用いて自分なりに考察することができるようになる。（思考・判断） ・授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために自分なりに応用することができるようになる。（表現）
国際関係を学ぶ	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	現在の国際関係を理解するうえで重要な基本的な概念や理論を学ぶとともに、国際社会を構成するさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質に関する理解を深める。また国際関係における暴力と平和の問題や諸国家間の協力の問題について自分なりに考察するための基礎的な知識を習得する。そのうえで国際社会に生きる一員として何ができるか、国家の政策はどのようにあるべきかを、具体的に考察する。	現在の国際秩序に関する概念的な理解を深めるとともに、国際社会におけるさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質、そして国際関係における暴力と平和や協力の問題について理解できる。国際関係で起こるさまざまな問題について自分なりに考察できる。（知識・理解）	現在の国際秩序に関する概念的な理解を深めるとともに、国際社会におけるさまざまな主体や集団、国際的な原則や諸制度の特質、そして国際関係における暴力と平和や協力の問題について理解できる。（知識・理解）
地域社会と家族を学ぶ	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	生活の多くの部分が社会化されてきた現代において、家族の意味や役割は大きく変化してきている。本科目では、超少子高齢化を迎えるこれからの社会において子育て支援や高齢者の介護など現代の家族を取り巻く多様な課題を取り上げながら、家族および個人・社会との関係やその影響について客観的な視点から考え、理解を深める。	・現代の家族を取り巻く課題について、独自の考えを持って説明できるようになる。（関心・知識・理解・表現・態度） ・家族および個人・社会との関係やその影響について、客観的な視点で理解できるようになる。（関心・知識・理解）	・現代の家族を取り巻く課題について、講義の範囲内でおおいた説明できるようになる。（関心・知識・理解・表現・態度） ・家族および個人・社会との関係やその影響について、講義の範囲内でおおいた理解できるようになる。（関心・知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
経済を学ぶ	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	基礎的な経済理論を学習する。最初に、経済学が対象とする合理的な個人、その行動を組織化する市場、これらに基づく経済学の科学としての性格、またその限界等について触れる。その後、交換のメリットを理解するため、比較優位の理論について学ぶ。続いて市場、競争、需要、供給、均衡の概念を学び、市場による資源の配分が好ましい性質を持つことを理解する。また、市場による配分がうまくいかないケース、政府の役割等も学習する。さらに、GDP、物価、インフレーション等のマクロ経済学の概念にも触れ、短期のGDPやインフレ率決定の理論も学習する。	現実に日本や世界経済で発生している現象に興味を持ち、学習した理論を応用して、自らそれらを説明する能力を身につけている。（技能・思考・判断・表現、関心・意欲・態度）	・ミクロ経済学、マクロ経済学がどのような現象を分析する学問であるかが理解できている。（知識・理解） ・それぞれの分野に登場する基本的な概念、理論について理解、説明することができる。（知識・理解、思考・判断・表現）
社会を学ぶ	社会を理解するための教養	2	1・2・3・4	近代の社会科学の多く（経済学、法学、政治学等）が、その対象領域を厳密に限定しつつ、専門分化的に発展してきたのに対して、社会学は、論理と実証に基づく経験科学でありつつ、しかも、あらゆる社会事象を対象とし、そのさまざまな側面を横断的、統合的に捉えようとする開かれた学問として成立した。それゆえ社会学は、もともと、工業化、都市化、情報化といった近代社会のマクロな変動を捉えるのに適した認識方法であったが、その柔軟性、包括性のゆえに、現代が直面するマクロな社会変動からミクロな人間関係の変化に至る諸問題——すなわち、グローバリゼーションの問題、環境問題、民族問題、宗教対立の問題から、地域社会の問題、家族の問題、高齢化の問題、ジェンダーの問題、子供の問題に至るまで——に対しても有効な認識方法であり続けている。そうした社会学の成立と発展の跡を辿りつつ、その基礎概念と方法を理解したうえで、社会学が実際に現代社会の諸問題をどう捉えているかを学ぶ。	・授業を通して得た教養を通して自分の人生観や世界観を広げることができるようになる。 ・社会的な問題意識と社会学的方法論を用いて、現代社会の諸問題がどのように論じられているかを説明できる。（知識・理解・表現）	・授業を通して得た教養を通して自分の人生観や世界観を最低限広げる。 ・社会的な問題意識と社会学的方法論を用いて、現代社会の諸問題がどのように論じられているかを最低限説明する。（知識・理解・表現）
自然と地理を学ぶ	自然を理解するための教養	2	1・2・3・4	自然地理学とは、私たちを取り巻く自然環境と人間との関係を解明し考察する学問である。私たちの生活は、地形、気候、水文、植生などの様々な自然環境の影響を受けている。この講義では、現代人の生活が、自然環境からどのような影響を受け、どのように結びついているのかを理解するために、地形、気候、水文など身近な自然環境の特徴を自然地理学的視点から学修する。	・世界各地の地形、気候、水文、植生など様々な自然環境の特徴を、自然地理学の専門用語を用いて具体的に説明できる。（知識・理解） ・自然環境と人間生活の関係を十分に理解し、自然災害など自然環境の急変に対応するための方法を主体的に提言できる。（思考・判断・表現） ・地形図に記載された情報を十分に理解したうえで、そこに記載された地形、植生などの自然環境の特徴を具体的に説明できる。（思考・判断・表現）	・世界各地の地形、気候、水文、植生などについてのいくつかの自然環境の特徴を、最低限の専門用語を用いて説明できる。（知識・理解） ・自然環境と人間生活の関係をある程度理解し、自然災害など自然環境の急変に対応するための方法を考えることができる。（思考・判断・表現） ・地形図に記載された情報をある程度理解したうえで、その内容を自然地理学的に説明できる。（思考・判断・表現）
数学への招待	自然を理解するための教養	2	1・2・3・4	一見すると不規則で手が出せないように感じる事項でも、その根本を探ると簡単な法則や原理に基づいていることが少なくないが、数学はその根源を突き詰める作業そのものを学ぶ学問の一つである。この科目では、数学的なものの見方や考え方に触れると共に、数学の美しさや面白さ、便利さを体験し、同時に数学の歴史や数学者の素顔に迫る。具体的には数の概念から始めて、関数・幾何学・微分積分学・指数対数・三角関数などの高校で学んだ分野を広く扱って、私たちの身の回りに活かされている数学のアイデアを見つけ出し、簡単な計算を行いながら、そのアイデアを様々な角度からとらえていく。	1. 様々な社会の出来事で得られたデータの分析・解析・考察ができる（思考・判断・表現） 2. データから予測ができる（思考・判断・表現） 3. 身の回りのものから数学を感じるとることができる（関心・意欲・態度） 4. 数学の理論から応用化を感じるとることができる（知識・理解） 5. 数学の便利さに気づくことができる（知識・理解）	1. 授業内容を理解できる（知識・理解） 2. 身の回りで活かされている数学的な見方や考え方に関心を抱ける（関心・意欲・態度） 3. 論理的に思考することができる（思考・判断・表現） 4. Excelの使い方が上達する（技能）
生物学への招待	自然を理解するための教養	2	1・2・3・4	生物化学・生命科学の基礎知識を習得し、生命現象への理解を深める。生化学の飛躍的な進歩に続く遺伝子の実体解明によって、“生きていることの実態”がほぼ解明された。生命を維持しているのは細胞構造の中に組み込まれた生化学反応のネットワークであり、その主役はタンパク質や核酸をはじめとする機能性高分子である。こうした現代生物学が解明した最も基本的な生物像について理解する。	1. 人体の構造と機能について、具体的な器官や分子を例に説明できる。（知識・理解） 2. 生物の進化について、人類にいたる一連の流れを説明できる。（知識・理解） 3. 遺伝子と疾病・老化との関係について、関連遺伝子を例に説明できる。（知識・理解） 4. 人間の営みと地球環境との関係について、具体的な事例をもとに説明できる。（知識・理解）	1. 人体の構造と機能について、概要を説明できる。（知識・理解） 2. 生物の進化について、概要を説明できる。（知識・理解） 3. 遺伝子と疾病・老化との関係について、概要を説明できる。（知識・理解） 4. 人間の営みと地球環境との関係について、概要を説明できる。（知識・理解）
物理学への招待	自然を理解するための教養	2	1・2・3・4	物理学の原理は日常身の回りに無数に存在するのであるが、それを意識している人は少ない。物理学は、自然現象を深く考え、なぜだろうと問いかける学問の一つであって人間の好奇心に根ざした学問でもある。本科目では、物理学の視点から自然法則の意味合いとその現代社会との関連性を学ぶほか、物理学の歴史にも触れながら、現代科学が先人の努力と成果の上に築かれていることを理解するとともに、生活に関わる材料の物理的・数量的考え方を体験する。	1. 力学・熱学・波動論・電磁気学といった古典物理学の基礎体系を理解し、日常生活や学業生活に活用できる。（知識・理解）（技能）（関心・意欲・態度） 2. 物理学に関する必要な情報を自分で探索・調査し、正しい情報を選んで利用できるリテラシーを獲得している。（技能）（思考・判断・表現）	1. 物体の運動（変位・速度・加速度）および力、エネルギーという物理学の基礎概念について説明できる。（知識・理解） 2. 実験・実証の重要性を理解し、講義中に示した実現象について、物理学的意味を回答できる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）
化学への招待	自然を理解するための教養	2	1・2・3・4	1. 授業にきちんと出席し、スライドに書かれたことをノートに写すのみでなく、話の中で重要な点をメモでき、わからないことは実験中に積極的に質問することができる（関心・意欲・態度）。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、資料やノートを見ずに正答が書ける（知識・理解）（思考・判断・表現）。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、資料やノートを見ずに、例を挙げて説明ができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。	1. 授業にほぼ出席し、スライドに書かれたことをノートにとり、スライドに書かれていなくても話の中で重要な点をメモできる（関心・意欲・態度）。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、解答例を記憶して正答が書ける（知識・理解）（思考・判断・表現）。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、資料やノートを見ながら、説明ができる（知識・理解）（思考・判断・表現）。	1. 授業にきちんと出席し、スライドに書かれたことをノートに写すことができる。 2. 授業内容に関する試験問題に関して、ノートを見ながら解答できる。 3. 自然科学的な見方（自然現象における因果関係の探求）に関して、ノートを見ながらなら、例を挙げて説明ができる。

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
健康スポーツ実習A	身体と健康を管理するための教養	1	1・2・3・4	運動活動を通して運動に親しむ態度を身につけ、自分自身の体力や健康問題に関して気づき、それらの改善について思考、実践する。日常生活を営むために必要な体力と健康の維持・増進に関する運動の必要性や、運動が果たす役割を学び、基礎的な運動技術や知識を習得する。実技例としてストレッチやウォーキング等のエクササイズ、バレーボールやバドミントン等の球技、ユニホッケーやアルティメット等のニュースポーツを実践する。活動を通じた学生同士の交流から、コミュニケーション能力を向上させる。	・運動に親しむ姿勢を持ち、自ら積極的に活動する態度を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を考え、実践することができるようになる。（思考・判断・表現） ・学生同士のコミュニケーションを図ることができる、積極的に人間関係の構築ができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができるようになる。（知識・理解）（技能）	・運動に親しむ姿勢を持ち、自ら積極的に活動する態度を身につける努力ができるようになる。（関心・意欲・態度） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を基礎的な選択肢から選び実践に向けて行動することができるようになる。（思考・判断・表現） ・学生同士のコミュニケーションを図ることができる、積極的に人間関係を構築するための努力ができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割をおおいた理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解することができるようになる。（知識・理解）（技能）
健康スポーツ実習B	身体と健康を管理するための教養	1	1・2・3・4	自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景をより深く理解し、運動技術や体力においてより向上を目指した運動活動を行う。日常生活を営むために必要な体力と健康の維持・増進に関する運動の必要性や、運動が果たす役割を学び、基礎的な運動技術や知識の習得を図る。実技例としてストレッチやウォーキング等のエクササイズ、バレーボールやバドミントン等の球技、ユニホッケーやアルティメット等のニュースポーツを実践し、生涯を通して運動に親しむ態度を身につける。	・自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景が理解できるようになる。（関心・意欲・態度） ・運動技術や自身の体力について、より向上を目指した活動ができるようになる。（思考・判断・技能） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解し、身につけることができるようになる。（知識・理解）（技能）	・自分に合った運動活動において、その運動やスポーツの文化的・社会的背景がおおいた理解できるようになる。（関心・意欲・態度） ・運動技術や自身の体力について、向上を目指した努力ができるようになる。（思考・判断・技能） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割をおおいた理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術や知識を理解することができるようになる。（知識・理解）（技能）
健康スポーツ演習	身体と健康を管理するための教養	1	1	生理学や公衆衛生学、保健学等の見地から、健康な生活に必要な理論を理解し、日常生活を営むために必要な体力と健康の維持・増進に関する運動の必要性や、それらに対して運動が果たす役割を学ぶ。さらに体力や健康に関する社会的問題に関心をもち、問題意識を持って考察する。また、エクササイズ各種、球技、ニュースポーツなど運動活動を通して基礎的な技術や知識を習得する。	・生理学や公衆衛生学、保健学等の知識を深め、健康を取り巻く環境を多面的に理解し、生涯における健康づくりの具体的方法や、体力や健康に関する社会的問題について理解できるようになる。（知識・理解）（思考・判断） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための改善策を考え、実践することができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割を理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術・知識を理解し、身につけることができるようになる。（知識・理解）（技能）	・生理学や公衆衛生学、保健学等の知識を深め、健康を取り巻く環境を理解し、生涯における健康づくりの具体的方法や、体力や健康に関する社会的問題についておおいた理解できるようになる。（知識・理解）（思考・判断） ・自分自身の体力や健康問題に気づき、それらを改善・向上させるための方法を考えることができるようになる。（思考・判断・表現） ・日常生活を営むために必要な体力および健康の維持・増進に関する運動の必要性とその役割をおおいた理解できるようになる。（知識・理解） ・生涯を通して楽しむことのできる運動やスポーツの技術・知識を理解することができるようになる。（知識・理解）（技能）
教養総合ワークショップA	課題解決実践演習	4	1・2・3・4	本学で学べる多様な教養と技能を応用し、共立独自の総合的・創造的実践をおこなう学際的な課題解決型授業である。履修者同士や様々な教員、職員、地域、専門技術者などの多様な他者と協働し、その成果を一般に公開することを目指す。あらゆる活動を定めるのはすべて履修生であり、体調、スケジュール、他の授業との兼ね合い、すべて自分でコントロールしていく過程で、社会的人間として周囲と連携し、コミュニケーションを取り、行動することを身につける。	1. テーマについて学修し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. 独自のイメージを創出し、合わせてそれを実現するための具体的なアイデアを出すことができるようになる。 3. 目標達成のために、他者と協力的にコミュニケーションを取り、計画的に行動することができるようになる。 4. 自らの責任を果たすと同時に、大学の教職員、学外の指導者、社会とマナーを守って連携・協力できるようになる。	
教職入門	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野科目 国際学部：関連科目	2	1	激変する世界情勢や日本社会の中で、次世代を育成する学校教育や教員に期待される役割は大きく、その職務が肥大化し、学校教育現場が新しい指導内容や指導体制の整備、諸改革に伴う多くの仕事に追われている現状を知る。近代～現代の学校教育の整備と拡充を通して培われた聖職者論・労働者論・専門職論の教職観が、教員養成・採用・研修における教員の資質能力の確認や形成、社会が要求する教員の職務拡大や多様化、教員自身のアイデンティティ醸成に大きく寄与していることを理解する。さらに、21世紀に入り、教員の負担軽減と児童生徒の事情に適切に即応することを狙い、家庭・地域社会との連携強化や他専門職との連携・分担など、「チーム学校」と呼ばれる新しい学校組織、学校運営の形態が始動していることを学び、これからの教員に期待される専門職性を検討し、自らの適性を確認する。	1. 教師という職業が成立した歴史的経緯とその専門職性を理解し、日本社会の教職観をクラスメートと議論し確認できる。（知識・理解）（技能） 2. 教員養成のしくみと希望する地方公共団体及び私立学校の教員採用試験の内容や受験スケジュール等を理解し、1-4年生の学習計画を立てることができる。（知識・理解）（技能） 3. 教師の有すべき資質・能力について、様々な教師論や国の政策等を参照しながらクラスメートと議論し、不易／流行の観点から提言レポートを作成できる。（思考・判断・表現） 4. 自己の教師としての適性を踏まえ、修得すべき知識・技能と専門科目及び教職科目の相応を理解して、今後の計画的な履修を検討することができる。（意欲・関心・態度）（技能）	1. 教師という職業が成立した歴史的経緯とその専門職性を説明できる。（知識・理解） 2. 教員養成のしくみと希望する地方公共団体及び私立学校の教員採用試験の内容や受験スケジュール等を理解している。（知識・理解） 3. 教師の有すべき資質・能力について、自己の経験や国の政策等を踏まえ、クラスメートと意見を交換できる。（思考・判断・表現） 4. 自己の教師としての適性を確認し、修得すべき知識・技能を判断できる。（意欲・関心・態度）
教育学概論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野科目 国際学部：関連科目	2	2	「教育職員免許法施行規則」第6条第1項に示された表中「教職に関する科目」第3欄指定の「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を扱う。具体的には、教育の意義や目的、人間の成長・発達についての基本を理解し、日本および西洋における教育の歴史の変遷を踏まえながら、そこにある教育思想や教育観に学び、現在の日本の教育について多様な観点から考察する。	1. 教育の基礎的な概念、理論、歴史、思想等を土台に自らの教育観を構築することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2. 教育の意義・目的を理解した上で、現在教育の諸課題について多様な観点から考察を深めることができるようになる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 3. 現代教育の諸課題について確かな認識をもち、対応策を提案することができる。（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1. 教育の基礎的な概念、理論、歴史、思想等について主体的に学ぶ姿勢をもち続けるようになる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 教育の意義・目的を理解することができる。（知識・理解） 3. 現在の教育課題について確かな認識をもつことができる。（関心・意欲・態度）（思考・判断・表現）
発達と学習	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野科目 国際学部：関連科目	2	2	出生してから高齢に至るまでの人間の行動発達のプロセスをたどりながら、学習のメカニズム、言語、思考、対人行動など、具体的な行動を取り上げて解説し、生涯発達という視点から如何なるものか、生涯発達を前提にした教育の意義について考えていく。ただし、講義を進めていく中で、受講生の理解の程度などに配慮して変更することもありうる。	1. 生涯発達(life-span development)という視点から人間行動を概観し、学校教育の意義、求められる教員の役割、教授法や評価法などについて考えることができる。（知識・理解） 2. 教員-生徒間に展開する教育現場がいかなるものか理解できる。（知識・理解）	1. 生涯発達(life-span development)という視点から人間行動を概観し、学校教育の意義、求められる教員の役割、教授法や評価法などについて述べることができる。（知識・理解） 2. 教員-生徒間に展開する教育現場がいかなるものかを述べるができる（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
教育の制度と経営	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	2	2	日本の教育制度について、法的根拠となる憲法や教育基本法他を確認し、その整備確立の歴史や現状について学ぶ。特に、教育を受ける権利を保障する手続きについて、「義務教育」の成り立ちや学校教育の拡充過程（諸外国との比較を含む）、国と地方の教育行政、家庭・学校・社会の役割と協働関係、学校・学級運営で生じている事件・事故・災害の諸事例を通じて、その制度的構造を把握する。そして、児童生徒の教育権や学習権を保障するにあたって、教員や学校教育が抱える課題を見出し、21世紀に求められる公教育を展望する。学習目標をより効果的に達成するため、2つの課題レポートを作成する。第1回は、大学近隣の文部科学省・情報広場への訪問について報告する。第2回は、授業で学んだ教育制度のしくみや学校運営の実際を通じ、第15回授業での討論を基に、学校教育の抱える諸課題の改善方を提案する。	1. 日本及び諸外国の教育制度の整備・発展の歴史及び現代の制度を理解している。（知識・理解） 2. 日本国民及び日本在住外国人の教育を受ける機会及び権利を保障する諸法規を理解している。（知識・理解） 3. 現代日本社会の諸課題に応じる教育改革の動向を把握し、その成果と問題点について分析し、クラスメートと意見を交換できる。（思考・判断・表現） 4. 中学校・高等学校運営のしくみ及び教員の校務・職務に関わり、学校事故や訴訟等の事例を踏まえ、教員や学校として適切な対応について提案できる。（思考・判断・表現） 5. 文部科学省・情報広場に訪問し、期限までに報告レポートを提出することができる。（関心・意欲・態度）（技能）	1. 日本における学校教育の整備・発展の歴史及び現代の制度を理解している。（知識・理解） 2. 日本の教育制度を支える法体系を理解している。（知識・理解） 3. 現代日本社会の諸課題に応じる教育改革の動向を把握し、その成果と問題点を整理できる。（思考・判断・表現） 4. 中学校・高等学校運営のしくみ及び教員の校務・職務を法的根拠に基づき説明できる。（思考・判断・表現） 5. 文部科学省・情報広場に訪問し、報告レポートを書くことができる。（関心・意欲・態度）（技能）
教育課程の意義と編成	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	1	2	教育課程の意義、関係法令、教育課程の変遷、学習指導要領の特徴、学習指導要領を踏まえた教育課程の編成・実施のポイント、教育課程に関する基礎的な理論、カリキュラム・マネジメントなどについて考えながら学び、学校組織の一員として教育課程の編成・実施に主体的に参画・協働するために必要な知識と能力を身に付ける。	1. 教育課程の意義や教育課程の基準の必要性などについて説明できる。（知識・理解） 2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について説明できる。（知識・理解） 3. 学習指導要領総則を踏まえ学校での教育課程の編成・実施のポイントについて説明できる。（知識・理解） 4. 教育課程の編成・実施に関わる基礎的な理論について説明できる。（知識・理解） 5. 教育課程の変遷（各時代の学習指導要領の特徴等）について説明できる。（知識・理解） 6. カリキュラム・マネジメントについてその考え方や重要性について説明できる。（知識・理解）	1. 教育課程の意義や教育課程の基準の必要性などについて説明できる。（知識・理解） 2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について説明できる。（知識・理解） 3. 学習指導要領総則を踏まえ学校での教育課程の編成・実施のポイントについて説明できる。（知識・理解） 4. 教育課程の編成・実施に関わる基礎的な理論について説明できる。（知識・理解） 5. 教育課程の変遷（各時代の学習指導要領の特徴等）について説明できる。（知識・理解） 6. カリキュラム・マネジメントについてその考え方や重要性について説明できる。（知識・理解）
道徳教育の理論と指導	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	2	3	道徳的指導力を獲得するため、道徳教育の意義や原理について様々な角度から考え、道徳教育の歴史的な展開、さらには実践上の方法や課題などについても学び、道徳教育について主体的に考える力を身につける。	1. 道徳教育の意義や原理などについて比較するなどして具体的に説明することができる。（知識・理解） 2. 学校における道徳教育の目標や内容を記述することができ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を授業に応用することができる。（知識・理解）	1. 道徳教育の意義や原理などについておおまかに述べることができる。（知識・理解） 2. 学校における道徳教育の目標や内容をある程度記述することができ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を授業に一定程度適用することができる。（知識・理解）
特別活動の理論と指導	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	1	2	学校には、多様な人間と多様な関係を形成する機会が用意されている。そこでは、集団の一員として関わりながら活動を成し遂げる過程で、関係を一段と深め、また自らの役割や生き方を見つめる機会を得ることができるはずである。さらに、社会に主体的に参加していく道筋も見出せるだろう。こうした経験を保障する特別活動の意義について、実践事例にも触れながら具体的に考える。	1. 特別活動の意義を理解できる。（知識・理解） 2. 実践的課題を意識化して、特別活動の指導ができる。（知識・理解）（技能）	1. 特別活動の意義を説明できる。（知識・理解） 2. 実践的課題を意識化して、特別活動の指導ができる。（知識・理解）（技能）
教育の方法と技術	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	2	2	激変する社会の課題を克服し、新しい時代を拓く次世代の能力を開発し伸ばすため、新しい教育方法論や指導技術が考案され、様々な教材・教具が開発されてきた歴史を辿り、教育方法の本質を掴む。具体的には、学校教育の普及に伴う一斉教授の浸透、個々の能力を開発し効果的な学習を促す児童中心主義や経験主義のアプローチ、高学歴化の進行に伴う学力親及び学力評価の多様化、脱学校論の支持によるホームスクーリング及びインターネットによる在宅学習の選好等に注目する。そして、今後の学校教育におけるICT機器の活用を通じた「主体的・対話的で深い学び」を実現し、論理的思考を指導するための基礎的な技能を身につける。さらに、学期中に中学・高等学校を訪問・見学、独自の教育理念や学習指導要領に基づく教育実践や学習評価の方法について報告レポートを作成し、大学での学びを深化し、より良い指導技術や教育実践を考究する。	1. 教育方法の理論と実践の歴史を踏まえ、現代の学校教育実践の諸課題を指摘できる。（知識・理解） 2. 学習指導の類型とその効果と難点を理解し、授業での活用方法を提案できる。（知識・理解）（技能） 3. 学習状況の評価や評定について、法令等に基づく手続きや様式を理解し、しくみを説明できる。（思考・判断・表現） 4. 取得予定の免許教科（中学校・高等学校）の学習指導要領、教科書、年間教育計画、学習指導案について相互の関わりを説明し、学習指導案の一部を作成できる。（思考・判断・表現）（技能） 5. 学校訪問及び授業見学をし、その教育実践の特徴を掴み、報告レポートを書くことができる。（関心・意欲・態度）（技能）	1. 学校教育における教育方法の理論と実践の歴史について整理し、説明できる。（知識・理解） 2. 学習指導の類型とその効果と難点を整理できる。（知識・理解） 3. 学習状況の評価や評定について、法令等に基づく手続きや様式を理解している。（思考・判断・表現） 4. 取得予定の免許教科（中学校・高等学校）の学習指導要領、教科書、年間教育計画、学習指導案について相互の関わりを説明できる。（思考・判断・表現） 5. 学校訪問及び授業見学をし、その学校運営と教育実践の特徴を掴み、報告レポートを提出期限までに提出することができる。（関心・意欲・態度）（技能）
生徒指導（進路指導を含む）	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	「生徒指導（進路指導を含む）」では、まず、生徒指導の位置付けや意義について学び、学校の組織的な取り組みのあり方について把握する。次に、生徒指導上の課題の内容（暴力行為、いじめ、不登校、インターネット、性に関する課題、児童虐待等）や、集団指導・個別指導の方法原理について理解する。そして、発達特性や集団の形成過程と関連づけて、生徒指導上の課題に対応する視点を養う。また、生徒指導体制と教育相談体制のあり方や両者の相違について理解したうえで、専門家や関係機関との連携のあり方について考える。その後、進路指導・キャリア教育の位置づけ・意義・重要性を理解し、組織的な指導体制、および家庭や関係機関との連携の重要性について知る。さらに補足すると、この授業では実践的な理解をより深めるために、ポートフォリオの作成やディスカッション等を行う。	1. 生徒指導にかかわる全般的知識に積極的な関心を向け、意欲的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2. 生徒指導の定義や教育課程における生徒指導の位置づけ・意義・重要性について十分に理解し、学校の指導方針や年間指導計画、および校務分掌に基づく組織的な取り組みの重要性を理解できる。（知識・理解） 3. 集団指導・個別指導の方法原理の基礎について十分に理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけた生徒指導のあり方を包括的に理解できる。（知識・理解） 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する様々な法令の内容を理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけて暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の重要な課題の内容や対応について総合的に理解できる。（知識・理解） 5. 生徒指導体制と教育相談体制のあり方や両者の相違について十分に理解したうえで、専門家や関係機関との連携のあり方を詳細に示すことができる。（知識・理解） 6. インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携のあり方の概略を示すことができる。（知識・理解） 7. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ・意義・重要性を総合的に理解し、組織的な指導体制、および家庭や関係機関との連携の重要性についても包括的に把握することができる。（知識・理解） 8. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を説明し、ポートフォリオを十分に活用できる。（思考・判断・表現）	1. 生徒指導にかかわる基礎的な知識に関心を向け、意欲的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2. 生徒指導の定義や教育課程における生徒指導の位置づけ・意義・重要性について理解し、学校の指導方針や年間指導計画、および校務分掌に基づく組織的な取り組みの重要性を理解できる。（知識・理解） 3. 集団指導・個別指導の方法原理の基礎について理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけた暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の重要な課題の内容や対応の基本について理解できる。（知識・理解） 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する基礎的な法令の内容を理解し、発達特性や集団の形成過程と関連づけて暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の重要な課題の内容や対応について総合的に理解できる。（知識・理解） 5. 生徒指導体制と教育相談体制の相違を理解したうえで、専門家や関係機関との連携のあり方の基本を示すことができる。（知識・理解） 6. インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携のあり方の概略を示すことができる。（知識・理解） 7. 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ・意義・重要性を一通り理解したうえで、組織的な指導体制、および家庭や関係機関との連携の重要性についても把握することができる。（知識・理解） 8. 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を説明し、ポートフォリオを活用することができる。（思考・判断・表現）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
生徒指導（栄養教諭）	家政学部：資格に関する科目	2	3	「生徒指導（栄養教諭）」では、まず、生徒指導の位置付けや意義について学び、学校の組織的な取り組みの重要性や生徒指導上の課題と対応の視点について理解する。次に、集団指導・個別指導の方法原理について知り、児童・生徒の自己の存在感が育まれるような生徒指導のあり方について考える。また、人間の心理・社会的発達を道筋を知り、「食」が心身の成長に及ぼす影響、および「食」を取り巻く社会環境について幅広く理解する。そして、食行動異常の様相、児童・生徒の抱える食に関する生徒指導上の課題、および栄養教諭の学校内外の連携のあり方について考える。さらに補足すると、この授業では実践的な理解をより深めるために、生徒指導のための有効な方法である絵画療法やロール・プレイングにも取り組む。また、生徒指導に関する視野を広げるために、履修生同士でディスカッションを行う。	1. 生徒指導の知識全般に積極的な関心に向け、意欲的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2. 教育課程における生徒指導の位置付け、および各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性に関する総合的知識を習得できる。（知識・理解） 3. 学級担任・教科担任・栄養教諭の校務分掌上の役割、および学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取り組みの重要性を総合的に理解できる。（知識・理解） 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容、生徒指導上の課題の定義や対応の視点、および生徒指導体制と教育相談体制の違いについて総合的に理解できる。（知識・理解） 5. 集団指導・個別指導の方法原理に基づき、児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定のあり方について、自分なりの包括的な考えを示すことができる。（思考・判断・表現） 6. 生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導のあり方を十分に理解できる。（知識・理解） 7. 心理・社会的発達に関する諸理論の概要、「食」が心身の成長に及ぼす影響、および「食」を取り巻く社会環境について包括的に理解できる。（知識・理解） 8. 食行動異常の様相、児童・生徒の抱える食に関する生徒指導上の課題、および栄養教諭、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との学校内外の連携を含めた対応のあり方について総合的に理解できる。（知識・理解）	1. 生徒指導の基礎的知識に関心に向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2. 教育課程における生徒指導の位置付けや、各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義に関する基礎的知識を習得できる。（知識・理解） 3. 学級担任・教科担任・栄養教諭の校務分掌上の役割、および学校の指導方針・年間指導計画にそった組織的な取り組みに関する基礎的知識を獲得できる。（知識・理解） 4. 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容、生徒指導上の課題の定義や対応の視点、および生徒指導体制と教育相談体制に関する基本的知識を得ることができる。（知識・理解） 5. 集団指導・個別指導の方法原理に基づいて、児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定のあり方について、自分なりの考えを示すことができる。（思考・判断・表現） 6. 生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導のあり方の基本を理解できる。（知識・理解） 7. 心理・社会的発達に関する諸理論の概要、「食」が心身の成長に及ぼす影響、および「食」を取り巻く社会環境についての基本的知識を習得できる。（知識・理解） 8. 食行動異常の様相、児童・生徒の抱える食に関する生徒指導上の課題、および栄養教諭、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との連携を含めた対応のあり方についての基本的知識を獲得できる。（知識・理解）
教育相談（カウンセリングを主とする）	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	「教育相談（カウンセリングを主とする）」では、最初の段階で集中的に理論学習を行うことを通して、学校における教育相談の意義、および教育相談を行ううえで不可欠な理論や概念について把握する。その後は、座学の授業回とロール・プレイングの授業回を設けて、理論と実践の往還により、教育相談に関連する幅広い理解を深める。具体的には、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの姿勢を身に付け、具体的な相談の技法について体得する。さらに、児童・生徒の不適切な行動の背後にある意味について把握したうえで、教師が児童・生徒の発達段階・発達課題を踏まえて、適切で柔軟に対応するための方法について工夫し、教師の役割への気づきを深める。それに加えて、児童・生徒・保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について把握するとともに、学校の内外の組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。	1. 教育相談に関連する知識や実践体験に積極的な関心に向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2. 学校における教育相談の意義と課題、および教育相談を適切に行うために不可欠な理論・概念について十分に理解できる。（知識・理解） 3. 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの姿勢や、具体的な技法の内容について総合的に理解できる。（知識・理解） 4. 児童・生徒の不適切な行動の意味について十分に理解したうえで、発達段階・発達課題を考慮しながら、いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する教育相談を進める方法について、包括的に理解できる。（知識・理解） 5. 教師が児童・生徒の発するシグナルに気づき、適切に対応する方法について自分なりに総合的に工夫することができる。（思考・判断・表現） 6. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を十分に理解できるとともに、教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの重要性について包括的に理解できる。（知識・理解） 7. 児童・生徒・保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について、職種や公務分掌に応じて適切に例示できる。（思考・判断・表現） 8. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を総合的に理解できる。（知識・理解）	1. 教育相談に関連する知識や実践体験に関心に向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2. 学校における教育相談の意義と課題、および教育相談を適切に行うために不可欠な理論・概念の基礎について理解できる。（知識・理解） 3. 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの姿勢や具体的な技法の、基本的内容について理解できる。（知識・理解） 4. 児童・生徒の不適切な行動の意味について理解したうえで、発達段階・発達課題を考慮しながら、いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する教育相談を進める方法の基礎について理解できる。（知識・理解） 5. 教師が児童・生徒の発するシグナルに気づき、適切に対応する方法について自分なりに工夫することができる。（思考・判断・表現） 6. 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解できるとともに、教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備等、および組織的な取り組みの基本について理解できる。（知識・理解） 7. 児童・生徒・保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について、職種や公務分掌に応じて自分なりに示すことができる。（思考・判断・表現） 8. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を知ることができる。（知識・理解）
教職実践演習（中・高）	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目	2	4	大学1-4年生で身につけた教職や教科に関する専門知識と、教育実習で得た教科指導および生徒指導の経験と技術を統合深化させて、発達段階にある子ども達の教育を担う専門職としての責任や使命をあらためて確認し、教育現場で必要とされ自らに不足とする技能を省察し、その向上を図る。そして、実践的指導力を確かなものとするため、具体的には次のような授業方法を組み合わせる。大学教員および現職中学校・高等学校教員によるレクチャーの聴講、近隣の中等教育機関の見学や現職教員へのインタビュー、学校内を想定した生徒指導のロールプレイング、職員会議等に擬した集団討論、模擬授業の計画実施である。これらを通じて、学校現場で要求される上司・同僚・保護者との連携や協力関係の構築、生徒理解と指導の幅広い視点を身につけることが期待される。	1. 公教育担当者の自覚をもつことができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 教育実習の経験を反省材料に、教育指導技能の向上を目指して学び続けることができる。（関心・意欲・態度） 3. 教育専門職者として実践的な指導ができるようになる。（技能）	1. 教育実習の経験を反省材料として、教師の仕事について確かな認識をもつことができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 2. 公教育の意味を理解し、その担当者としての資質を十全なものにしようとする態度を身につけることができる。（知識・理解）（関心・意欲・態度） 3. 授業計画を立案し、教育指導に必要な必要最低限の技能を行使することができる。（技能） 4. 教師になる意欲をもち続け、そのための方途を模索することができる。（関心・意欲・態度）
特別活動及び総合的な学習の時間の理論と指導	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	2	2	特別活動及び総合的な学習の時間の目標や内容などを理解し、指導計画を作成して指導を行うために必要な基礎的な知識と能力を身に付ける。	1. 特別活動及び総合的な学習の時間の意義について説明できる。 2. 特別活動及び総合的な学習の時間の目標や内容について説明できる。 3. 特別活動及び総合的な学習の時間の指導・評価について考え説明できる。	1. 特別活動及び総合的な学習の時間の意義について説明できる。 2. 特別活動及び総合的な学習の時間の目標や内容について説明できる。 3. 特別活動及び総合的な学習の時間の指導・評価について考え説明できる。
教育課程の意義と編成	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	2	2	教育課程の意義、関係法令、教育課程の変遷、学習指導要領の特徴、学習指導要領を踏まえた教育課程の編成・実施のポイント、教育課程に関する基礎的な理論、カリキュラム・マネジメントなどについて考えながら学び、学校組織の一員として教育課程の編成・実施に主体的に参画・協働するために必要な知識と能力を身に付ける。	1. 教育課程の意義や教育課程の基準の必要性などについて説明できる。（知識・理解） 2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について説明できる。（知識・理解） 3. 学習指導要領総則を踏まえ学校での教育課程の編成・実施のポイントについて説明できる。（知識・理解） 4. 教育課程の編成・実施に関わる基礎的な理論について説明できる。（知識・理解） 5. 教育課程の変遷（各時代の学習指導要領の特徴等）について説明できる。（知識・理解） 6. カリキュラム・マネジメントについてその考え方や重要性について説明できる。（知識・理解）	1. 教育課程の意義や教育課程の基準の必要性などについて説明できる。（知識・理解） 2. 教育課程に関する法令や学習指導要領の特徴について説明できる。（知識・理解） 3. 学習指導要領総則を踏まえ学校での教育課程の編成・実施のポイントについて説明できる。（知識・理解） 4. 教育課程の編成・実施に関わる基礎的な理論について説明できる。（知識・理解） 5. 教育課程の変遷（各時代の学習指導要領の特徴等）について説明できる。（知識・理解） 6. カリキュラム・マネジメントについてその考え方や重要性について説明できる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目	5	4	「教育実習（事前・事後指導を含む）」は、事前指導・実習・事後指導の3段階に分かれている。事前授業の目的は、学生ひとりひとりが実習の意義について自らに引き付けて考え、意欲と目的意識をもって実習に臨もうとする姿勢を身に付けることである。そのため教育実習の意義や目的について説明した後、その実務に関する基本事項の確認を行う。次に、教師役の希望者を募り、教師役以外の履修者を生徒役として、模擬授業を行う。教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度・行動に留意し、観察・参加・学習指導を中心に活動を行う。事後指導では、自らの体験を整理し総括することを中心課題とする。	1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する積極的な関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する適切な自己課題を設定することができる。（関心・意欲・態度） 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な総合的な知識・情報を習得することができる。（知識・理解） 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的かつ丁寧に、十分に適切な教材選択ができる。（知識・理解） 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をよくつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して綿密で適切な指導計画を作成することができる。（知識・理解） 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、適切な説明・発問・板書等を行って、包括的な学習の目標を達成することができる。（思考・判断・表現） 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、効果的な生徒指導・学級経営を行うことができる。（思考・判断・表現） 7. 教育実習では、教育実習生として十分にふさわしい態度をもって、自発的かつ協動的に勤務できる。（関心・意欲・態度） 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を詳細に振り返り、十分な整理を行うとともに、今後の課題について見極めることができる。（思考・判断・表現）	1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する自己課題を設定することができる。（関心・意欲・態度） 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な基本的な知識・情報を習得することができる。（知識・理解） 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的に行い、適切な教材選択ができる。（知識・理解） 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して基本的な指導計画を作成することができる。（知識・理解） 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、説明・発問・板書等を行って、基本的な学習の目標を達成することができる。（思考・判断・表現） 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、基本的な生徒指導・学級経営を行うことができる。（思考・判断・表現） 7. 教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度をもって勤務できる。（関心・意欲・態度） 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を振り返り、基本的な整理を行うことができる。（思考・判断・表現）
教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	文芸学部：その他資格関連科目	3	4	「教育実習（事前・事後指導を含む）」は、事前指導・実習・事後指導の3段階に分かれている。事前授業の目的は、学生ひとりひとりが実習の意義について自らに引き付けて考え、意欲と目的意識をもって実習に臨もうとする姿勢を身に付けることである。そのため教育実習の意義や目的について説明した後、その実務に関する基本事項の確認を行う。次に、教師役の希望者を募り、教師役以外の履修者を生徒役として、模擬授業を行う。教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度・行動に留意し、観察・参加・学習指導を中心に活動を行う。事後指導では、自らの体験を整理し総括することを中心課題とする。	1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する積極的な関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する適切な自己課題を設定することができる。（関心・意欲・態度） 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な総合的な知識・情報を習得することができる。（知識・理解） 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的かつ丁寧に、十分に適切な教材選択ができる。（知識・理解） 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をよくつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して綿密で適切な指導計画を作成することができる。（知識・理解） 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、適切な説明・発問・板書等を行って、包括的な学習の目標を達成することができる。（思考・判断・表現） 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、効果的な生徒指導・学級経営を行うことができる。（思考・判断・表現） 7. 教育実習では、教育実習生として十分にふさわしい態度をもって、自発的かつ協動的に勤務できる。（関心・意欲・態度） 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を詳細に振り返り、十分な整理を行うとともに、今後の課題について見極めることができる。（思考・判断・表現）	1. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に関する関心を高め、十分な心構えをもつとともに、教育実習全般に対する自己課題を設定することができる。（関心・意欲・態度） 2. 事前指導（課題や実務の確認・模擬授業）を通して、教育実習に不可欠な基本的な知識・情報を習得することができる。（知識・理解） 3. 教育実習では、各教科の授業や特別活動に関連する教材研究を意欲的に行い、適切な教材選択ができる。（知識・理解） 4. 教育実習では、個々の生徒や集団の状況をつかみ、各教科の授業や特別活動に関連して基本的な指導計画を作成することができる。（知識・理解） 5. 教育実習で担当する各教科の授業や特別活動では、説明・発問・板書等を行って、基本的な学習の目標を達成することができる。（思考・判断・表現） 6. 教育実習では、生徒や学級の実態を把握し、諸活動に参加して、基本的な生徒指導・学級経営を行うことができる。（思考・判断・表現） 7. 教育実習では、教育実習生としてふさわしい態度をもって勤務できる。（関心・意欲・態度） 8. 事後指導を通して、教育実習の体験過程を振り返り、基本的な整理を行うことができる。（思考・判断・表現）
特別支援教育概論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	2	2	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解する前提として、まず人間の行動発達の基本について解説します。次に特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する教育現場の現状を紹介し、特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒として、知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害（学習障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動障害）を取り上げ、身体的特徴と行動発達を概観していきます。更に特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒への対応について解説していきます。その上で特別支援教育におけるコーディネーターの役割、関係機関・家庭との連携など、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて概観していきます。	1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解できる。 2. 障害を抱える幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけ、活用できる。 3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解できる。 4. 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解できる。 5. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。	1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解できる。 2. 障害を抱える幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけ、活用できる。 3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解できる。 4. 特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解できる。 5. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。
国語科教育の理論と方法	文芸学部 専門分野Ⅱ	4	3	国語科の教科指導のノウハウを、理論的な立場から具体的に学ぶことを目標とし、教壇に立って授業を行ううえで必要な知識や、その知識を効果的に教授する方法を身につける。その際、近年の文章・談話研究や表現論、メディア論、文学理論等の成果もふまえながら、教材研究の基礎となる知識や方法論、情報機器及び教材の活用、教材開発も含め模擬授業に取り組み、教科学習の基盤となる「学びあう集団（クラス）づくり」を実践する。テキストまたは参考書として、中・高各「学習指導要領総則」「学習指導要領解説国語編」を用いる。	1. 教材研究の基礎となる知識を十分に身につけ、活用できる。（知識・理解） 2. 教材研究で得た知識を効果的に教授するための方法論を十分に身につけ、活用できる。（技能） 3. 情報機器及び教材の特徴を十分に理解し、活用できる。（知識・理解）	1. 教材研究の基礎となる知識を一定程度身につけ、活用できる。（知識・理解） 2. 教材研究で得た知識を効果的に教授するための方法論を一定程度身につけ、活用できる。（技能） 3. 情報機器及び教材の特徴を一定程度は理解し、活用できる。（知識・理解）
国語科教育の理論と実践	文芸学部 専門分野Ⅱ	4	3	国語科の教科指導のノウハウを、理論的な立場から具体的に学ぶことを目標とし、中学・高校の学校現場での授業を想定しながら、次年度の教育実習に向けて教壇実習に必要な実践的技量を身につける。情報機器及び教材を活用し、教材開発も含め模擬授業に取り組み、教科学習の基盤となる「学びあう集団（クラス）づくり」を実践する。テキストまたは参考書として、中・高各「学習指導要領総則」「学習指導要領解説国語編」を用いる。	1. 学習指導要領に基づき適切な指導計画を立案し、学習指導案（全体案・細案）が作成できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 生徒の意欲と学力を、さまざまな観点からアセスメントできるようになる。（思考・判断・表現） 3. 生徒のニーズに合わせて、学習目標に適した教材開発ができるようになる。（思考・判断・表現） 4. 発問・板書・音読等、国語授業を成立させる上での基本技量を身につけ、活用できる。（技能） 5. 模擬授業を通じ、授業デザインの仕方と学習集団作りを学び、アクティブ・ラーニング型授業を展開できるようになる。（技能）	1. 学習指導要領に基づき適切な指導計画を立案し、学習指導案（全体案・細案）が一定程度は作成できるようになる。（思考・判断・表現） 2. 生徒の意欲と学力を、一定程度はアセスメントできるようになる。（思考・判断・表現） 3. 生徒のニーズに合わせて、一定程度の教材開発ができるようになる。（思考・判断・表現） 4. 発問・板書・音読等、国語授業を成立させる上での基本技量を一定程度身につけ、活用できる。（技能） 5. 模擬授業を通じ、授業デザインの仕方と学習集団作りを学び、アクティブ・ラーニング型授業を一定程度は展開できるようになる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
社会科学教育の理論と指導	国際学部 関連科目	4	3	中学社会科の特質、授業の内容と構成方法を理解し、実際の授業を構成するための知識と技能を習得する。具体的には、中学社会科の歴史を概観し、現在の教科の目標と内容を教授する。さらに、中学社会科を構成する各分野（歴史、地理、公民）の特徴と内容構成を解説する。さらに授業に耐えうる技能と知識を模擬授業を通して教授する。	1.教科としての社会科、および地理的・社会的・公民的の各分野について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を熟知したうえで正確に説明できる。（知識・理解） 2.上記目標及び内容を十分に理解したうえで、年間・単元・各授業の実践的かつ具体的な指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3.指導計画に従って、充実した内容の模擬授業を実施できる。（技能）	1.教科としての社会科、および地理的・社会的・公民的の各分野について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を理解したうえで説明できる。（知識・理解） 2.上記目標及び内容を理解したうえで、年間・単元・各授業の指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3.指導計画に従って、必要最低限の内容を満たした模擬授業を実施できる。（技能）
地理歴史科教育の理論と指導	国際学部 関連科目	4	3	地理歴史科の特質、授業の内容と構成方法を理解し、実際の授業を構成するための知識と技能を習得する。具体的には、地理歴史科とそれに先立つ高等学校社会科の歴史を概観し、現在の教科の目標と内容を教授する。さらに、地理歴史科を構成する各教科（世界史A・B、日本史A・B、地理A・B）の特徴と内容構成を解説する。さらに授業に耐えうる技能と知識を模擬授業を通して教授する。	1.教科としての地理歴史科、および世界史A・B、日本史A・B、地理A・Bの各科目について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を熟知したうえで正確に説明できる。（知識・理解） 2.上記目標及び内容を十分に理解したうえで、年間・単元・各授業の実践的かつ具体的な指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3.指導計画に従って、充実した内容の模擬授業を実施できる。（技能）	1.教科としての地理歴史科、および世界史A・B、日本史A・B、地理A・Bの各科目について、学習指導要領に掲げられた目標及び内容を理解したうえで説明できる。（知識・理解） 2.上記目標及び内容を理解したうえで、年間・単元・各授業の指導計画を立案できる。（思考・判断・表現） 3.指導計画に従って、必要最低限の内容を満たした模擬授業を実施できる。（技能）
公民科教育の理論と指導	国際学部 関連科目	4	3	かつての高等学校社会科の理念をふまえて現在の高等学校公民科のあり方について考える。社会科、公民科の成立の歴史や理念、具体的な教育実践、教材研究の理論と方法、授業づくり等について考察するとともに、公民科の直面する現代的・将来的課題を認識し、それへの取り組みについて検討する。日本の教育事例のみならず積極的に外国（アメリカ）の事例も取り上げて、授業担当者自身の現地での経験もまじえながら、具体的な教育課題とくに国内の文化的多様化（多文化化）に対応する教育の実践について考究する	1.社会科・公民科の歴史と理念を踏まえ、学習者の置かれた社会や環境に即した教材研究の基礎を身につけるとともに、公民科という教科やその学習のあるべき姿を展望する力をつける。（技能） 2.具体的な授業の観察（主としてビデオ資料）を通して、教育実習に必要なとされる授業分析のスキルの向上をはかる。（技能）	公民科の中心的な課題である「公正な社会的判断力の育成」について、適切な社会的事象を取り上げて教材研究を行い、それをもとに具体的な単元開発をすることができる。（技能）
美術科教育の理論と方法	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ	4	3	学習指導要領（中学校・高等学校「美術」）の解説と理解を踏まえ、作品評価の仕方や授業の立案・展開の方法を学ぶ。また教育現場の現状と問題点ととりあげ、美術教育の在り方を検討する。教育実習に備えて「鑑賞」と「表現」の教材研究を行い、模擬授業を発表する。さらに美術館における美術教育活動や生涯教育にも目をむけ、幅広い視野と知識、視点の獲得を目指す。	1.美術教育者に必要となる知識・技能・視点について具体的かつ十分に理解し、それを応用した授業の立案と実際の展開が円滑に行えるようになる。（知識・理解）（技能） 2.美術教育・美術活動支援の現況を触れ、それらについて表現者と教育者（または支援者）双方の視点から具体的な例を挙げながら説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3.授業の立案や展開について活発に議論を交わすことで、多様な意見を取り入れ、他者に対して自身の意見を示すことができる。（関心・意欲・態度）	1.美術教育者に必要となる知識・技能・視点についての基本を理解し、それを応用した授業の立案と実際の展開が行えるようになる。（知識・理解）（技能） 2.美術教育・美術活動支援の現況を触れ、それらについて自身の意見を交えながら説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 3.授業の立案や展開について議論を交わすことができる。（関心・意欲・態度）
美術科教育の理論と実践	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ	4	3	これからの中学高等学校美術教育について模索する授業展開とする。併設中学高等学校では、生徒の意欲を引き出すことをねらいとして、実技・制作に当たって関連する美術的情報を豊富に提示することを特色としているので、本授業でも実技の外に講義も織り交ぜ、専門的な美術用語、技法名、作家名等を紹介しながら進めていく。	併設中学高等学校で実際に行われている課題の制作を通して実践的な美術科教育について理解し、授業の中で示された知識・技術・視点を踏まえながら、独自の授業計画とそれに基づいた指導案が作成できるようになる。（知識・理解）（技術）（思考・判断・表現）	併設中学高等学校で実際に行われている課題の制作を通して実践的な美術科教育について理解し、授業計画とそれに基づいた指導案が作成できるようになる。（知識・理解）（技術）（思考・判断・表現）
家庭科教育の理論と方法	家政学部 資格に関する科目	4	3	本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と実践」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を、情報機器及び教材を活用しながら研究してゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。併設校や各自の近隣の学校での授業参観を前期の課題の1つとしている。授業公開日に出向き、なるべく教育現場に慣れておくことが求められる。	科目名にあるように、学生自ら主体的に家庭科教育の理論と方法を追究することが求められている科目である。 1.授業計画にある題材内容を自ら深めることができるようになる。（知識・理解） 2.家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組む能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） 3.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現）	1.授業計画にある基礎的な題材内容を自ら深めることができるようになる。（知識・理解） 2.家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組む能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度） 3.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現）
家庭科教育の理論と実践	家政学部 資格に関する科目	4	3	本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と方法」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を捉えてゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。授業の後半には、学習指導案に基づき模擬授業を行いながら、相互批評においても多角的な視野を養うことができるようになる。	科目名に通じるように、アクティブラーニングを通して学生自ら主体的に家庭科教育の理論と実践を探ることが求められている科目である。 1.授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を明示化できるようになる。（関心・意欲・態度） 2.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現）	1.授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を指導案や模擬授業において明示化できるようになる。（関心・意欲・態度） 2.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。（思考・判断・表現）
英語科教育の理論と方法	文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	4	3	第二言語としての英語の教授法を身に付け、課題点も理解する。	1.英語を教育するということはどういうことなのかという問いに、自信を持って答えることができる。（知識・理解） 2.英語教育法の歴史について、他者に正しく説明することができる。（知識・理解） 3.英語教育の問題点は何かという問いに、自信を持って答えることができる。（知識・理解）	1.英語を教育するということはどういうことなのかという問いに、答えることができる。（知識・理解） 2.英語教育法の歴史について、他者に説明することができる。（知識・理解） 3.英語教育の問題点は何かという問いに、答えることができる。（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
英語科教育の理論と実践	文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：関連科目	4	3	教育実習に向けて、中学校・高等学校での実際の指導の現状を知り、模擬授業を通して教育力を高めていく。	1.教材研究を深いレベルまでできる。（技能） 2.自分なりの授業方法を、十分に確立している。（技能） 3.自信を持って授業ができるだけの、高度な英語力を持っている。（技能）	1.教材研究ができる。（技能） 2.自分なりの授業方法を、ある程度確立している。（技能） 3.授業ができるだけの英語力を持っている。（技能）
仏語科教育の理論と方法	文芸学部 専門分野Ⅱ	4	3	フランス語を教えるのに必要な基礎知識を確実に身に付けるとともに、その知識を効果的に教える方法を研究する。前期には、発音、冠詞、形容詞、動詞の法と時制、日常用いる基本的表現などについて、徹底的に復習し、それを確実に使え、また明確に説明できるようになることをめざす。後期では、具体的な教材を取り上げ、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を行うことによって、正確かつ効果的な教授法を身に付ける。近年は、フランス語教育のあり方について、コミュニケーションを重視したアプローチから、言語と行動を結びつける教育法が取り入れられるようになってきている。こうした多様な言語教育の手法も学んでいく。また、教科書分析のしかた、評価の方法、教室内で有効な様々なテクニックなど、様々なトピックスを扱う。前期は講義と演習を組み合わせる授業を行い、後期は受講生それぞれが指導計画を作成し、模擬授業を行う。	1.十分な語学的知識をもってフランス語を的確に運用し、教えることができる。（知識・理解）（技能） 2.フランス語教育の歴史、近年の動向について的確に説明することができる。（知識・理解） 3.教育という営みについて多角的な視野をもち、かつ自身の考えを述べるることができる。（思考・判断・表現）	1.基礎的な語学的知識をもってフランス語をある程度運用し、教えることができる。（知識・理解）（技能） 2.フランス語教育の歴史、近年の動向について大まかに説明することができる。（知識・理解） 3.教育という営みについて多角的な視野をもつことができる。（思考・判断・表現）
仏語科教育の理論と実践	文芸学部 専門分野Ⅱ	4	3	4年次に行われる教育実習に先立ち、教壇で授業ができる能力を養う。フランス語の授業を行うためには、どうしたらよいか。授業の準備の仕方、そして実際に教壇に立った時の授業の展開を学ぶ。テキストや教材に触れ、その教授法の効果や問題点を考えるとともに、学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を実施する。特に正しい発音法、自分の意思を伝え、相手と意見交換することができる会話力、日常的な実用文を書くための作文力等を身に付けさせるための効果的な授業方法を考え、それを実践する。テキストまたは参考書として、中・高各「学習指導要領総則」「中学校学習指導要領外国語編」「高等学校学習指導要領解説外国語編英語編」を用いる。	1.フランス語の4技能を確実に身に付け、教えることができる。（技能） 2.テキストの内容をわかりやすい発声で正確に説明できる。（知識・理解） 3.フランス語を教えるために必要な基礎知識、基本的態度、教科書の活用法、授業運営能力、生徒への対応をまんべんなく身に付けている。（関心・意欲・態度） 4.模擬授業を行い、反省点をわかりやすく明文化できる。（思考・判断・表現）	1.フランス語の4技能を身に付け、おおまかに教えることができる。（技能） 2.テキストの内容をおおまかに説明できる。（知識・理解） 3.フランス語を教えるために必要な基礎知識、基本的態度、教科書の活用法、授業運営能力、生徒への対応を身に付ける努力をしている。（関心・意欲・態度） 4.模擬授業を行うことができる。（思考・判断・表現）
情報科教育の理論と方法	文芸学部 専門分野Ⅱ	2	3	本授業科目は、「高等学校教諭一種免許状(情報)」取得のために設定された「教職に関する科目」のひとつである。後期「情報科教育の理論と実践」と併せて、情報科を指導する際に必要な知識や技能を身につけていただく。「情報科」の意義・目的・教育方法を考察し理解していただく。実際に授業を行う上で必要な教材研究・授業設計・生徒理解・評価・授業改善などの具体的な方法を、多くの事例を概観しながら講義や演習を通して理解する。また、世界の情報教育について考察するとともに、未来の日本の情報教育について夢を持って議論し考察する。	1.教育課程全体の中で、教育の情報化や教科「情報」を必修で実施することの意義・役割を認識できる。（知識・理解）（思考・判断・表現） 2.授業を行う上で必要な教材研究や授業設計・評価・改善能力を理解・修得できる（知識・理解）（技能） 3.情報科教員の基礎的な資質を理解できる。（知識・理解） 4.情報科教育の現状把握と、今後の情報化教育の在り方について思案し未来を見通すことができる。（思考・判断・表現） 5.後期「情報科教育の理論と実践」科目において実践的な演習を行える基礎技能を修得する。（知識・理解）（技能）	1.半期15回の内、5回以上出席する（関心・意欲・態度） 2.後期「情報科教育の理論と実践」科目において実践的な演習を行える基礎技能を修得する。（知識・理解）（技能）
情報科教育の理論と実践	文芸学部 専門分野Ⅱ	2	3	本授業科目は、「高等学校教諭一種免許状(情報)」取得のために設定された「教職に関する科目」のひとつである。前期「情報科教育の理論と方法」の修得を本授業の学習前提条件とする。次年度の教育実習も見据えつつ、高校「情報」科の教員として教壇に立ち、実際に授業ができる実践能力を身に付ける。高校「情報」教員になるための現状理解、世界と比較し日本の「高校『情報』科」が目指すものを考察、高校「情報」科授業の実践を通じて、教育実習はもとより、即戦力として教壇に立てる技能のほか、将来教員として実践したい具体的な夢をたくさん見つけていく。	1.高校「情報」科の各科目の授業が行える（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 2.高校「情報」科として教育実習を完遂できる（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現） 3.「高校「情報」教員採用試験」を自信をもって受験できる（関心・意欲・態度） 4.高校「情報」科の教員として授業の実施、施設管理、生徒理解、自己研鑽ができる（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）	1.半期15回の内、5回以上出席する（関心・意欲・態度） 2.情報科教員の基礎的な資質を修得（知識・理解）（技能）（思考・判断・表現）
学校経営と学校図書館	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	国際化・情報化の進展により社会は変革を求められている。こうした変化に対応するには、異文化を理解し多様な価値観を認める態度、多様な情報を収集分析して活用できる能力、自己の生き方を大事にしながらか他の考え方も認める態度の育成が大切である。現在学校では、自らが課題を自覚し必要な情報を収集し解決に導く自学自習能力の育成が大きな課題となっている。児童・生徒にこうした能力を身に付けさせるために、学校図書館が学校教育を補完する施設としてきちんと機能していくことが重要といえる。学校図書館が果たすべき教育的意義・役割、運営に関わる基本的事項を解説し、学校教育と図書館の望ましいあり方を考えてもらうことを目的とする。	1.学校の中で学校図書館の果たすべき教育的な意義や役割を深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2.学校図書館の運営に必要な知識のうち、学校経営に関わることを網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3.学校経営の観点からの司書教諭の役割について深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解）	1.学校の中で学校図書館の果たすべき教育的な意義や役割について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2.学校図書館の運営に必要な知識のうち、学校経営に関わることについて最低限の説明ができる。（知識・理解） 3.学校経営の観点からの司書教諭の役割について最低限の説明ができる。（知識・理解）
学校図書館メディアの構成	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	学習過程において活用される教材・教具には図書や視聴覚メディアをはじめとする多様なメディアがある。これらを活用していくことは、児童・生徒が学習内容に対する理解と思考を深め、情報や知識を収集・整理し活用していく方法を習得するのを助けることになる。学校図書館の多様なメディアの存在意義を理解し、メディアの収集・整理・蓄積・利用において学校図書館が果たすべき役割を考える。また、学校図書館メディアが利用目的に応じて効率的に活用されるためには、利用しやすいように整理し組織化しておく必要がある。メディアを内容(主題)によって分類配列すると同時に、必要なものを迅速かつ的確に探し出せるよう目録を整備するといったメディアの組織化について解説する。	1.学校図書館メディア(情報メディアを除く、以下同じ)の種類やそれぞれの特性、利用法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2.学校図書館メディアのコレクション構築についての深い知識を持ち、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3.分類法を用いて学校図書館メディアの分類作業を行う方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 4.分類法を用いて、応用的な学校図書館メディアの分類作業を行うことができる。（技能） 5.目録法を用いて学校図書館メディアの目録レコード作成を行う方法を体系的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 6.目録法を用いて、応用的な学校図書館メディアの目録レコード作成作業を行うことができる。（技能）	1.学校図書館メディア(情報メディアを除く、以下同じ)の種類やそれぞれの特性、利用法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2.学校図書館メディアのコレクション構築について最低限の説明ができる。（知識・理解） 3.分類法を用いて学校図書館メディアの分類作業を行う方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4.分類法を用いて、基礎的な学校図書館メディアの分類作業を行うことができる。（技能） 5.目録法を用いて学校図書館メディアの目録レコード作成を行う方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 6.目録法を用いて、基礎的な学校図書館メディアの目録レコード作成作業を行うことができる。（技能）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
学習指導と学校図書館	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	情報社会の進展により、学校教育の目的は生涯に渡る自己学習を可能にする能力を身に付けることへと変化し、学校教育自体が生涯学習体系の一環として位置付けられるようになった。生涯を通して自ら学ぶことを可能にするメディア活用能力の育成は、学校教育に対する社会的な要請といえる。「学び方を学ぶ」教育は、学校教育の今日的課題であり、そのために教科学習をはじめあらゆる教育活動に、学校図書館とそのメディアを活用する学習活動を展開していくことが求められている。メディア活用能力の育成を支援する学校図書館と司書教諭の役割についての理解を深めると同時に、教育課程の展開に学校図書館を活用していくための具体的な方法について考える。	1. 教科教育における学校図書館およびそのメディアの活用方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2. 総合学習における学校図書館およびそのメディアの活用方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3. 課外活動における学校図書館およびそのメディアの活用方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 4. 児童・生徒・教諭のメディア活用能力の育成を支援する司書教諭の役割について深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解）	1. 教科教育における学校図書館およびそのメディアの活用方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 総合学習における学校図書館およびそのメディアの活用方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 3. 課外活動における学校図書館およびそのメディアの活用方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4. 児童・生徒・教諭のメディア活用能力の育成を支援する司書教諭の役割について最低限の説明ができる。（知識・理解）
読書と豊かな人間性	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	読書及び読書指導(教育)の必要性を確認することから出発し、そのためには、どのような学校図書館や図書館活動が有効かを理解したうえで、具体的な読書指導の方法について学ぶ。子どもに本を読むことを推奨していくのは、学校教育の大切な役割の一つといえる。読書が人間性や創造性を高めてゆく上で大きな影響を及ぼし、子どもの人格形成に深く関わることは広く認められているところである。しかし、読書行為を継続させ習慣化に至らせるためには、児童・生徒の発達段階に応じた適切な動機付けが不可欠である。読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトークなどの方法を駆使しながら読書指導を行うのは司書教諭の重要な役割といえる。読書指導の意義・役割、発達段階に応じた指導の在り方などを解説し、理解を深めるようにするとともに、子どもの読書習慣の形成に有効と思われる動機付けの方法を考える。読書環境の変化と子どもにとっての読書の意義にも触れる。	1. 読書および読書指導の必要性を深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2. 児童・生徒に読書への興味を持たせるための様々な図書館活動について深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3. 児童・生徒の発達段階に応じた読書指導のあり方を深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 4. 読書習慣の形成を促す動機付けの方法を深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解）	1. 読書および読書指導の必要性について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. 児童・生徒に読書への興味を持たせるための様々な図書館活動について最低限の説明ができる。（知識・理解） 3. 児童・生徒の発達段階に応じた読書指導のあり方について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4. 読書習慣の形成を促す動機付けの方法について最低限の説明ができる。（知識・理解）
情報メディアの活用	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門分野Ⅱ 国際学部：諸資格に関する科目	2	3	パーソナルコンピュータとインターネットの普及により、小・中・高等学校においても教育にコンピュータが使われるようになってきた。教育現場では、「情報のエキスパート」「メディア専門職」たる司書教諭が、学校図書館の運営のみならず教諭や児童・生徒のコンピュータおよびインターネット利用の手助けをすることが求められている。また、現在広く活用されており、さらに多様化が進んでいる視覚メディアについて知ることも重要である。本科目では、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的なしくみを論じた後、教育現場におけるコンピュータ利用教育の基本的な方法、新たな利用方法を考えるためのヒント等を紹介する。さらに、実際に機器を操作し演習課題をこなすことによる理解を深める。また、視覚メディアの特徴およびその活用法を論ずる。	1. 視覚メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 2. コンピュータやインターネット、デジタルコンテンツなどの情報メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 3. 児童・生徒・教諭への視覚メディアや情報メディアの適切な提供について深く理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 4. 情報メディアに関する情報を収集する方法を網羅的に理解し、それを他者に説明できる。（知識・理解） 5. 自ら問題を設定し、情報メディアに関する情報を収集する方法を適用して問題解決ができる。（技能） 6. 情報メディアを学校教育および学校図書館へ応用的に適用することができる。（技能）	1. 視覚メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 2. コンピュータやインターネット、デジタルコンテンツなどの情報メディアの種類やそれぞれの特徴、扱い方、活用法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 3. 児童・生徒・教諭への視覚メディアや情報メディアの適切な提供について最低限の説明ができる。（知識・理解） 4. 情報メディアに関する情報を収集する方法について最低限の説明ができる。（知識・理解） 5. 情報メディアを学校教育および学校図書館へ適用する課題を、指示された方法で行うことができる。（技能）
博物館学概論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目	2	2	I. 博物館の目的と課題博物館とはどういうものかを、博物館法など関係法規に照らしながら、その目的・種類などを講義する。同時に現代社会の中で博物館がどのように運営されているか、種類・設置目的・規模などの違いによる多様性を検討し、それらの違いによる博物館の職域とそのあり方、指定管理者制度や博物館評価などの現実課題を考える。 II. 博物館の機能は、古代・中世・近代の社会においてどのようなものであったかを、宗教や市民社会の発達、万国博覧会や明治維新、第二次世界大戦後の教育改革など、時代背景や行政とのかかわりの中で考え、ヨーロッパ・アメリカ・日本における博物館発達の歴史的背景の違いに注目して考察を行なう。 III. 博物館活動の実際博物館運営の実際を現場での仕事の進め方に即して講義する。資料収集やその保存、展示会の企画から開催まで、またそれと並行して行われる広報・教育普及事業などを含んだ学芸員の仕事を事例に則しながら紹介し、学芸員の特性と仕事の意味を考える。	1. 博物館に関する基礎的知識を理解し、その習得を目指す。（知識・理解） 2. 現代の博物館で働くということに関し、目的意識をもち自覚的に取り組む意欲を持った博物館職員となれるよう、専門性のある業務に関する基礎能力を身につける。（関心・意欲・態度）	1. 博物館がどのようなものか、その目的・種類などを理解している。（知識・理解） 2. 博物館の職域とそのあり方、指定管理者制度や博物館評価などの現実課題を考えることができる。（知識・理解） 3. 博物館の機能が社会の中でどのようなものだったのかを説明できる。（知識・理解） 4. 現代の博物館で働くということに関し、目的意識をもち自覚的に取り組む意欲を持った博物館職員となれるよう、専門性のある業務に関する基礎能力が身につけている。（関心・意欲・態度）
博物館経営論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目	2	3	博物館経営の基本概念を理解させることから始め、まずは博物館の社会的な位置づけから、博物館に求められる責任と活動の範囲を認識させる。こうしたことを背景に博物館の設置に関する知識と、設立されて以降の組織としての博物館の総合的管理のほか、財政管理、人員の管理、設備の管理の具体的な知識を与える。また博物館の活動として求められる展示・教育・調査・研究活動や地域や他機関との連携についても学ばせる。	1. 博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解している（知識・理解） 2. 博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力が身につけている（技能）	1. 博物館の社会的な位置づけから、博物館に求められる責任と活動の範囲を理解している（知識・理解） 2. 博物館の設置に関する知識と、設立されて以降の組織としての博物館の総合的管理について理解している（知識・理解） 3. 博物館の財政管理、人員の管理、設備の管理について理解している（知識・理解） 4. 博物館における展示・教育・調査・研究活動や地域や他機関との連携について理解している（知識・理解）
博物館資料論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目	2	3	博物館における資料の意味と価値を理解させた上で、それらの種類と分類について述べ、次にその収集と活用について理解させる。具体的には、資料の収集の方向性や方法、収集の際の留意点を述べた後、収集した資料を管理する方法と活用のあり方について述べる。特に資料の活用方法については、展示以外の方法について様々な事例を例示する。最後に、博物館資料を中心とする博物館の調査研究活動のあり方について述べる。	1. 博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得する（知識・理解）（技能） 2. 博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を身につける（技能） 3. 資料収集の実務の中で行なわれる資料の収集、整理保管や調査研究活動の実態を、講義のみならず見学などを通じて理解できる（知識・理解）	1. 博物館における資料の意味と価値を理解する（知識・理解） 2. 博物館における資料の収集の方向性や方法、収集の際の留意点を理解する（知識・理解） 3. 収集した資料を管理する方法と活用のあり方について理解する（知識・理解） 4. 博物館資料を中心とする博物館の調査研究活動のあり方について理解する（知識・理解）

科目名	科目区分	単位	学年	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
博物館資料保存論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目	2	3	博物館の使命は、資料を安全に活用し、次世代への引継ぐために保存することである。現在、博物館の資料保存は保存環境整備、資料の修理、調査研究という大きく3つの柱で構成されている。状態調査で現状を把握し、その状態にいたるまでの経緯や保存環境を分析し、原因を究明する。分析結果をもとに環境の改善を行なう。一方で環境を整え保存してもなお、モノとしての資料は劣化していく。それらを安全に活用および保存するために、最終手段として修理を行なう。修理は資料にとって大きな負担となる手術である。この手術を行なうためには、理論構築を念入りに行ない、作業内容については詳細な記録を残し、資料とともに後世につなげる必要がある。また、博物館資料のみならず、建造物や自然環境といった文化遺産についても、その保存にどのように取り組むべきであるのかを考えたい。	1. 博物館における資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力が身につけている（知識・理解）（技能） 2. 博物館で実際に行なっている保存の現場をイメージングできる 3. 将来実際に学芸員として現場に立った際に役立つスキルが身につけている（技能）	1. 博物館における資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得し、資料の保存に関する基礎的能力が身につけている（知識・理解）（技能）
博物館展示論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目	2	3	博物館における展示の目的や要件、用途による種類などを述べた後、そうしたものが博物館の歴史の中でどのように求められ達成されてきたのか、時間的経過と地域や国による違いを比較しながら述べる。次に具体的な事例を示しながら、展示室に求められる条件や展示ケースに求められる条件、ケースの種類を紹介し、そこに展示される作品との関係を述べる。後半においては、展示の具体的な方法と技術、解説パネル等について述べる。	1. 博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力が身につけている。（知識・理解）（技能） 2. 展示会場の大きさやレイアウトに応じた展示や、予算や使用できる器材に応じた展示ができるような臨機応変の能力を持つことができる。（技能）	1. 博物館における展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得している（知識・理解）（技能） 2. 展示会場の大きさやレイアウトに応じた展示や、予算や使用できる器材に応じた展示ができる（技能）
博物館教育論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：関連科目	2	2	講義を通して、大きく三つに分けた博物館教育の「対象」「方法」「役割」について考えていく。まず、博物館の来館者研究とプログラムの改善のための評価方法について学び、各対象者の特性とアプローチを考える。次に博物館の学習理論を理解した上で、博物館教育の手法について、国内外の事例をもとに理解し、プログラムの企画と実施について学ぶ。最後に、博物館がどのようにあるべきか、使命を理解し、そのための博物館の教育の役割を考え、生涯学習、地域とのかかわり、人材育成について考える。また、講義に加え、授業の中でディスカッションやグループワークを行い、受講者同士の異なる視点からの柔軟な発想やコミュニケーション能力を高め、博物館教育について、共通理解をもてるようにする。	1. 博物館の役割の中心であり、教育活動の基盤となる博物館教育について、その理論や実践に関する知識と方法を習得し、基礎的能力が身につけている。（知識・理解）2. 博物館に関する仕事の志望者が、広く教育の視点を持った上で各々の研究を進め、役割を実践できるための能力を身につける。（技能）	1. 博物館の来館者研究とプログラムの改善のための評価方法について理解している。（知識・理解）2. 来館者研究の対象者の特性と、アプローチを考えることができる。（技能）3. 博物館の学習理論を理解した上で、博物館教育の手法について理解し、プログラムの企画と実施について理解している。（知識・理解）4. 博物館の使命を理解し、博物館の教育の役割を考え、生涯学習、地域とのかかわり、人材育成について考えることができる。（知識・理解）
博物館実習	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：その他資格関連科目 国際学部：諸資格に関する科目	3	4	美術品・文化財の取り扱い方、梱包・陳列の方法を実習する。また博物館・美術館の見学を通じて、展示・照明・解説の方法や収蔵・修復についての実態、教育・普及・研究活動のあり方などを学ぶ。実際の掛幅や茶器・染織品などを用いて、作品を取り扱う前の準備、取り扱いや片付け方を実習する。作品の調査方法や、保管方法も実習する。また展覧会の際には、展示ケース内に作品を展示する方法や展示具の効果的な使い方を実習する。見学においては、前記の内容につき、観察したうえ、要点をノートに記録する。	1. 見学を含む学内実習や館園実習での現場体験を通して、多様な館種の実態や学芸員の業務を理解し、実践的能力が身につけている。（技能） 2. 博物館で学芸員が行う実務、特に作品に関わる実務を実践的に体験し、博物館での仕事がこなせるようになる。（技能）	1. 博物館・美術館の見学を通じて、展示・照明・解説の方法や収蔵・修復についての実態、教育・普及・研究活動のあり方を理解している（知識・理解） 2. 作品を取り扱う前の準備、取り扱いや片付け方が身につけている（技能） 3. 作品の調査方法や、保管方法、展示ケース内に作品を展示する方法や展示具の効果的な使い方が身につけている（技能）
生涯学習概論	家政学部：資格に関する科目 文芸学部：専門基礎分野 国際学部：関連科目	2	2	生涯学習とはどのようなことを意味し、その理念はどのように形づくられたのかを理解する。そのために、代表的な思想家や機関がこれまでどのように論議を重ねてきたのかについて、それぞれの思想や歴史的背景などについても理解し、現代の生涯学習が抱える課題についても考える。	1. 生涯学習の理念や歴史などについて具体的に説明することができる。（知識・理解） 2. 生涯学習に関わる基礎的な知識や技能を比較したり関係づけることなどを通して深く解釈したり、系統立てることができる。（知識・理解）	1. 生涯学習の理念や歴史などについておおまかに述べることができる。（知識・理解） 2. 生涯学習に関わる基礎的な知識や技能をある程度解釈したり、一定程度系統立てることができる。（知識・理解）